



米合衆國貨幣委員報告書

第五號ノ一



書記官ジョーランド、エムウエストン、ハ委員、命ヲ奉シテ、掲  
 クル特殊ノ事項ニ関シテ、事實ヲ探究シ、學士ノ諸論ヲ纂輯シ  
 テ、茲ニ教言ヲ陳ブ

- 一 亜細亞貿易並ニ銀ノ東洋ニ溢流スル
- 一 金屬貨幣ニ関シテ公會及ヒ滿州ノ権限
- 一 定位銀貨ニ関シテ歐洲及ヒ合衆國ノ法令
- 一 貿易銀

大正十一年四月  
 田口卯吉譯



特別報告書

細亞貿易並ニ銀貨ノ東洋ニ溢流スル事、附英人誤認ノ

我邦ニ於テ、當今各ヲ擅ニセル英國ノ記者中、唯ダセボンス氏ノ  
 ミ、東洋地方ノ銀ヲ要求スルノ將來ニ至リ、頼ル可ク欠クベカラ  
 ガルノ一重事タルヲ解スルガ如シ、他ノ英國ノ記者ハ多クハ  
 此要求ノ發スル源由ヲ誤解シ、且此要求ハ、銀ヲシテ金及ビ商品  
 ニ對シテ適當ノ割合ヲ保持セシムルニ緊要ナルヲ知ラザル  
 ナリ、英國ノ經濟學士ガ此誤解ヲ執持シテ疑ハザルヲ極メテ頑  
 固ナリ、此レ實ニ英國ニ於テ目今盛ニ流布シ、殊ニセイド氏及ビ  
 他ノ重本位ノ論者ガ多ク信用スル銀價下落ノ説ヲ發出セシメ  
 タリシ源因ナラン

政制及ビ亞細亞ノ間ニ行ハル、貿易ノ景況ニ関シテ、英京倫敦

府内ニ近來流布セル論説ノ誤謬タル事ハ倫敦エコノミスト新聞  
開中ニ年々掲クル所ノ財政及ビ商業ノ紀事數ハ實際ニ背馳ス  
ルアルヲ以テ證スベシ倫敦政表社中ノ新聞中此紀事ノ要領ヲ  
摘シテ掲グルモノアリ稱シテ金言高論万世ノ龜鑑ト為セリ亦  
ク驚クベキナラズヤ  
特ニ印度ノ事ニ関シテハ倫敦エコノミスト新聞ノ論説ノミナ  
ラズ千八百七十六年ノ英國銀價取調委員ノ報告昏ヲ閱ミスル  
モ以テ英國ノ通論ヲ詳カニスルヲ得ベシ此委員ノ長ゴスシエ  
ン氏ハ英國ニ於テハ實驗ノ精細ト意見ノ高明トヲ以テ最モ卓  
絶ナル財政家トシテ稱セラレ殊ニ千八百七十六年九月二十二  
日印度ノ知事及ビ領事ガ世界ノ諸國殊ニ英國ニ對シテ其國ノ  
貨幣ノ割合ヲ決定スルニ際シ大ニ賛成ノ功アリシ人ナリ  
倫敦エコノミスト新聞ノ論説

三

千八百六十四年ノ紀事 千八百六十五年  
二月十一日刊行  
去ル四年間ニ於テ印度及ビレウヱント地方ヨリノ輸入ノ價格  
實ニ二陪ノ多キニ至レリ此ボノ國々ハ其開化ノ度ニ於テハ  
遙カニ下流ニ居レリ從來内地ノ農氏ハ商業ノ真理ニ暗ク要  
求極メテ僅少ニシテ非常ニ金銀ヲ貴重シ之ヲ須要雅快ノ貨  
物ニ使用シ且ツ其流通ヲ快活ナラシムルノ術ヲ知ラズシテ  
徒ニ秘シテ土中ニ埋藏セリ故ニ此ボノ國ヨリ輸入ノ額カニ  
二陪シタルモノハ必然貨幣ト地金トヲ以テ其代價ヲ仕拂ヒ  
タルヲニテ同價ノ商品ヲ以テ償済シタルニ非ラザルベシ今  
其状況ヲ以テ之ヲ徵スルニ千八百五十七年ヨリ同六十二年  
マデ五年間印度及ビレウヱントニ向テ年々輸出シタル貴金ハ  
平均スルニ千三百五十万ステルリシガ 即チ 然ルニ千八  
百六十三年ヨリ同六十四年マデノ平均高ニ至ルニ千三百

万ノ多キニ至レリ  
 蓋シ貿易ノ勢ヒ潤滑ニシテ活達、速カキ得ルニ於テハ下派  
 ノ國ト並ニ其商業ハ一商品ト殆ント同價ハ他ハ商品トハ直  
 換直換トハ貨幣ノ媒助ナク商品トナリニ至ルベキハ必然ノ理  
 ナリ思フニ本年即チ千八百六十五年ノ如キハ東洋ノ地金ヲ  
 要求スルノ勢ヒ千八百六十三年及ヒ六十四年ニ比スレハ  
 大ニ減省セルガ如シ且ツ彼國ニ於テ既ニ英産ノ諸品ヲ嗜愛  
 スルニ至リシ様子ナレバ必ズ彼國トノ交易ヲシテ佛米ニ於  
 ケルガ如ク偏頗ナカラシムルニ至ルベキナリ  
 去ル二年間ホンベイ及ビベンガル地方ニ注入セシ貨幣ハ巨  
 万ノ數ニ上ルヲ以テ懐フニ土人ヲシテ政制ノ商業論ヲ信用  
 スルノ好機ヲ得セシメ之ヲ拒ムノ堡砦ヲ破壊セシメタルナ  
 ラン

千六百六十五年ノ紀事 千八百六十六年三月刊行  
 本綿ノ價直大ニ登貴セシヨリ印度及ビ其他ノ地方ニ向テ急  
 切ナル多量ノ注文ヲ為スニ至レリ此注文ヲ為セシニ付キ又  
 タ莫大ノ貴金ヲ廻送シタリ此貴金ハ重ニ英國ヨリ金ヲ送り  
 テ交換シ得タル政制大陸ノ銀貨ナリ本綿ノ價直登貴セシニ  
 因リテ最モ幸福ヲ受ケタリシ國々ハ印度、支那、埃及、ブラジル巴西ノ  
 四ヶ國ナリ

年号	セル商品	ル商品
千八百六十四年	印度、支那、巴西、及 埃及ヨリ輸入	印度、支那、巴西、及 埃及ニ輸出セ
千八百六十三年	九千四百六十餘萬磅	三千八百三十餘萬磅
千八百六十四年	八千三百六十餘萬磅	三千二百七十餘萬磅

千八百六十二年	六千二百九十餘萬磅	二千四百八十餘萬磅
千八百六十一年	四千二百十餘萬磅	二千九百十餘萬磅
千八百六十年	三千七百餘萬磅	三千零三十餘萬磅

此表中最も驚くべきは、印度、支那、巴西、及び埃及への輸出は唯  
 八百萬ステリングを増加したるのみならず、此等ノ國々  
 ヲリ輸入せし貨物ハ殆ント六千萬ステリング程ノ巨額ニ  
 達せしナリ五ヶ年ノ内我國ノ商業國ハ此ガノ豐饒ナル熱  
 帶ノ國々ニ利分ヲ與ヘ將來好結果ヲ得ルノ種子ヲ播殖セリ  
 其初メ此諸國ノ土人ハ機軸ヲ出スノ氣ナク貨物ヲ欲スルノ  
 情ナク無智固陋ノ有様ナリシカドモ千八百六十年以降驟雨  
 ノ如ク注入シタリシ金貨銀貨ヲハ大ニ感觸スル所ナクンバ  
 アラズ且ツ現ニ輸出ニ於テ八百萬ステリングノ増加セシ  
 ハ正シク將來商業ヲシテ健康ハ有様ニ復セシメ輸出輸入ノ

總計カシテ非常ハ懸隔ナカラシムルハ端緒ナラン事疑ハ容  
 ルベカラズ

千八百六十六年ノ紀事 千八百六十七年三月刊行

千八百六十年ヨリ以降常ニ絶ムル事ナカリシ所ノ埃及、印度  
 及び東洋ノ重ニ木綿ノ代價トシテ金銀ノ流出スル事ハ昨千  
 八百六十六年ノ三四月ニ至リテ停過ノ期ニ達セリ政別ヨリ  
 ノ貨幣輸出高ノ總計ハ九百五十萬ステリングニシテ千八  
 百六十五年ノ輸出高ニ比スルニ殆ンド三分一ヲ減少セリ千  
 八百六十五年ハ千四百五ヶ年ノ間貴金ノ東洋ニ流出スルノ極  
 メテ速カニシテ黃金國蓋シカリホルニア及びアラヨリ來ル  
 ヤ否直今ニ此方向ニ流出セリ今ヤ狀況如此ニ至レリ度々此  
 患ナカルベシ

千八百六十七年ノ紀事 千八百六十八年三月刊行

米刈ニ於テ木綿ノ耕作ヲ再興ニシヨリ大印度ニ金銀ノ流  
出スル事ヲ減殺シタリ千八百六十三年及ビ六十四年ノ兩年  
ニハ二千四百万ステルリング千八百六十五年ニハ千四百万  
ステルリング程ノ流出アリシモ千八百六十六年ニ至リテハ  
一千万ステルリングニ降り千八百六十七年ニハ更ニ減シテ  
三百五十万ステルリングノ小額ト成ルニ至レリ  
數年以來ノ印度景況ヲ熟視スレバ去ル五年間ノ交易利アリ  
シヨリ印度ノ人民ニ蒙リシ儼驗如何ヲ知ルヲ難キニ非ラズ  
鐵路ハ内部ニ通シテ前ニ改別ノ貨物ヲ見ザリシ処ニマデ運  
搬スルヲ得耕作ノ器具進歩シ貨銀増加シテ前ニ買フ能ハガ  
リシ貨物ヲモ購求スルヲ得セシメタリ此ボハ事情ヨリシテ  
改別ヨリ印度ニ輸出スル貨物ヲ増加シ印度ヨリ輸入ト殆ハ  
ト頓頗セシムルニ至レリサレバ商業ノ景況漸ク貨幣ノ媒助

ヲ要スル事少クシテ貨物ヲ交易セシムルヲ得ルノ地位ニ達  
シタリ懐フニ貴金ヲ印度ニ輸出スル事ナクシテ却テ彼國ヨ  
リ輸入スルノ有様ヲ見シテ將ニ遠キニ非ラザルベシ

千八百六十八年ノ紀事 千八百六十八年刊行

阿比西尼亞ヲ征スルノ軍事ハ大ニ千八百六十八年ヲシテ金銀  
ヲ埃及及ビ東洋ニ輸出セシメシモノナリ英佛兩國ノ汽船ヲ  
以テ輸出シタリシ總計ハ左ノ如シ

千八百六十七年 三百六十九万五千磅  
千八百六十八年 一千零七万五千磅

此増額六百三十餘万ノ内殆ンド四百万ステルリングハアビ  
シニヤ征軍ノ為メニ費ヤセシモノナリ印度ニ金貨輸出ノ少  
シク増加セシモノハ其木綿ノ勢瀆回復セシニ因ルナリ  
千八百六十六年ノ始ニ當テ東洋ニ地金流出ノトミタリシ徵

證ハ英國銀行及ビ佛國銀行ノ兩社共ニ銀行ノ於テ準備地金ノ  
總計大ニ増加セシ一例ヲ以テ明カナリ云々

印度ニ於テ確實ナル紙幣發行ノ制度ヲ設クルヲ茲ニ二十年  
間ナリ幾分カ彼國ノ金貨ヲ節スルノ効驗アルベシ目今銀行  
紙幣ノ流通スルモノ一千万ステルリングニ下レリ蓋シ萬地  
諸國ノ發行高ノ十三分ノ一ヨリ少額ナラン

千八百六十九年ノ紀事 千八百七十年三月刊行

千八百六十九年ニ於テハ渡タ埃及及ビ蕃隣ニ金銀ヲ運搬セ  
シムベキアビシニヤ軍旅モナカリシカドモ其金額ハ前年ト  
大ニ異ナルモノナカリキ即チ千八百六十八年ニハ一千万ス  
テルリングナリシモノ千八百六十九年ニ於テハ九百ステルリ  
ングナリ

千八百六十九年ノ輸出ニ於テ注視スベキトハ銀ノ金高多ク

七

シテ金ノ運搬大ニ減少セシナリ千八百六十年ヨリ同シク  
六十九年マテ十年間ニ改別ヨリ支那ニ金銀ノ輸出スルモノ  
多クハ約二千万ステルリングノ巨額ニ達セリ然レドモ此金  
高ハ以テ支那ニ流入セシ金貨ノ半額ニ過ギザルベシ何ト  
ナレバ北米カリホルニヤ州ヨリ直チニ支那ニ輸入セシ金額  
モ蓋シ此金高ト伯仲スベケレバナリ

印度ニ於テ貨銀ノ増進シ運送ノ費用減少セシガノ進歩アリ  
シヨリ印度ノ市場ニ於テ英産ノ貨物ヲ要求スルノ効驗榮セ  
シト既ニ微スベシ故ニ東洋ニ金銀ハ流出スルトモ永ク禁遏  
スベキ原因ハ既ニ成熟セリト云フベシ

千八百七十年ノ紀事 千八百七十年三月刊行

印度ニ地金ノ流出スルノ漸次ニ減少セリ千八百六十三年  
及ビ千八百六十四年ニ於テハ印度及ビ支那ニ金銀ノ流出セ

シ高ハ年毎ニ二千四百万ステレリ  
ニ於テハ四百三十餘万ニ下レリ且ツ現ニ為替相庭ノ算用ニ  
於テハ東洋ヨリ改州ニ返流スルノ勢アルヲ徴證セリ此返  
流ノ勢永遠ニ涉ラシト未ダ必シモ無シトスベカラズ千八百  
五十一年ヨリ同シク七十年マデ二十年間改州ハ東洋ニ向テ  
金五千一百万銀一億七千六百万合計二億二千七百万ステル  
リングノ巨額ヲ運搬シタリ之ヲ年々ニ平均スルニ一千一百  
万ステルリングナリカリホルニヤ及ビチラストラリヤノ新  
礦ヨリ年々産出スル処ハ約千九百万ステルリングナリト概  
算セラレタリ東洋ノ之ヲ吸引スルヲ殆ント其七割ニ當レリ  
チラストラリヤ及ビカリホルニヤノ産出ハ漸次ニ減少セリ  
故ニ印度諸國ノ蓄積セル寶藏ハ一旦西洋ニ事アルニ當テ之  
ヲ使用スルノ便利ニ供スルヲ得ベシ現ニ印度ニ於テ銀行紙

幣發行ノ次第ニ廣張スルヲ見バ此便利ヲ得ルノ難カラザル  
ヲ證スルニ足ラン近年識者アリ印度ニ於テ銀行紙幣ノ更  
ニ發行スルヲ得ベキ景況アルヲ見ルニ紙幣ハ更ニ  
五ルピールハル錢ノ名ニ分拆スルヲ得ベキヲ察シテ大ニ自ラ  
歡喜セリ

千八百七十一年ノ紀事 千八百七十一年三月刊行

我輩ハ復タ金銀ノ東洋ニ流動スルノ勢未ダ止マザルヲ報  
道セザルベカラズ千八百七十一年ニ於テ此流動更ニ一層ノ  
勢カヲ添ヘタルガ如シ千八百七十年ニ於テハ四百三十餘万  
ステルリングナリシモ此年ニ至リテハ總計六百二十五万ス  
テリングニ至レリ且ツ水綿ノ價直現今騰貴スルヲ見バ更  
ニ印度ニ輸出スルノ金高ヲ増加スベシ  
千八百七十四年ノ紀事 千八百七十四年三月刊行



千八百六十五年ノ貨幣集會ニ於テ蘇士國  
ツゲ氏ハ千八百七十一年ニ於テ銀貨東流ノ主意ヲ精密ニ考  
究シタリ同氏ハ亜細亞諸國ニ改州ノ貨物ノ次第ニ廣布セシ  
ヨリ東洋ニ銀ノ流出スルヲ千八百六十六年以後一半ニ減  
少シタリト決案ヲ立テタリ

亞細亞貿易ノ景況ニ就テエゴノミスト新聞ノ預審ハ凡テ如此  
ク實事ニ背馳シタリ亞細亞ニ金銀ノ溢流スルハ其勢ヒ縮々ト  
シテ沮滯スルヲナシエゴノミストハ全ク此流動ノ真ノ原因ヲ  
認メ得ザリシヲ以テ其言フ処ハ斯クマデニ主的ヲ失ヒタルナ  
リ  
在昔羅馬ノ時ニ當テ亞細亞ヲ銀塊沈苗之地ト稱セリ其事ヤ曰  
キヲ以テ今其實例ヲ得難シ然レドモ去ル四百年ノ景況ニ注目  
スルトキハ唯ダニ銀塊ノミナラズ幾分カ金塊モ此地ニ沈苗ス

カ

ルノ跡アルヲ徴スベシ凡テ輓近ノ事ハ曰事ニ比スレバ精確  
ノ證ヲ求メ易キニ付キ今マ此實例ニ拠テ其道理ヲ講求スベシ  
千四百九十二年以後新世界ヨリ大ニ貴金屬ヲ産出セリシエバ  
リール氏コロンブスノ旅行ヨリカリホルニヤ金礦ノ發見ニ至  
ルマデ世界ニ貴金屬ノ増加シタリシ金額ヲ概算シテ

舊世界ヨリ 一、〇七二、〇〇〇、〇〇〇弗  
新世界ヨリ 七、二五九、〇〇〇、〇〇〇弗

ナリト云ヘリ  
カリホルニヤ金礦ノ發見以後千八百四十九年ヨリ千八百七十  
六年マデ<sup>西</sup>年ニ諸識者ノ説ノ中間ヲ取レバ世界ニ貴金屬ノ増ヒ  
シモノハ

舊世界ヨリ 八二七、〇〇〇、〇〇〇弗  
新世界ヨリ 三、七五五、三〇〇、九二七弗

ナリ此後著ニ於テ新世界トハ判トストラリテ合称シタル  
ナリ  
千四百九十二年ヨリ以降貴金則テ貨幣金屬ノ流動ハ新世界ヨ  
リ旧世界ニ統々トシテ絶ユルコトナシ而シテ旧世界ヨリ新世界  
ニ流動スルモノ未ダ嘗テアラザルナリ此貴金ノ流動察スル所  
以ノモノハ價直ノ平均ヲ得ントスルノ勢ニ常ニ減衰セザルニ  
因ルナリ越ユベカラザルノ万里長城ニ非ラザルヨリハ焉ゾ能  
ク二十五年間ニ産出シタル十二億万因弗ノ貴金ノ流動ヲ防ク  
ヲ得ンヤ若シ此際長城アラシニハ貴金ノ産出如此キ巨額ニ至  
ラザルベシ何トナレバ金ノ價格下リ價銀登貴シテ之ヲ鑿出ス  
ルノ費用ハ金ノ價格ヲ以テ償フ能ハザルニ至ルベケレバナリ  
斯ノ如キ長城ニ非ラザリシガ為メニ其價格ハ常ニ高クシテ此  
金ヲ鑿出スルモ直ニ溢流シテ物價ヲ動揺スルコトナカリシ

サレバ貴金ヲ多ク産出スル國トテモ流通上ニ貴金ノ格外多量  
ニ保存スルニ非ラズ少シク外國ヨリ多量ヲ有シテ徐々ニ溢流  
セシムルナリ此レ則テ貨幣ノ水平ヲ乱ルノ極度ナリ此ヨリ以  
上ニ累積セシメント欲スルモ得ベカラザルナリ  
斯ク新世界ヲシテ其産出セシ金塊ヲ保持スル能ハザラシメシ  
事情ハ亦タ政制ヲシテ之ヲ保持スル能ハザラシメシ事情ナリ  
金銀ノ始メテ米土ニ察見セラル、ニ當テ其産出スル所ハ多ク  
ハ西班牙ニ來レリ然レ氏茲ニ保存スル能ハザリキ後久シカラ  
ズシテ政制ハ米州及ビオトストラリヤノ金産ヲ受領シ現今ニ  
至リテモ尚ホ其多分ヲ受クルコトナリ此ホノ金屬ガ旧世界ニ銀  
布シ各國平均ノ分量ヲ領受スルニ至ルニハ先ツ政制ノ媒酌ヲ  
得ザルベカラザルナリ去ル四百年間西洋ヨリ東洋ニ金屬ノ流  
動スルハ全ク之ガ為メナリ

此流動ハ新世界ニ於テ金屬產出ノ度ニ從テ多少ナリ亜細亞ニ於テ金礦ヲ發見シ世界ノ貴金屬產出ノ割合ヲ平均スル事アルニアラザレバ此流動ハ永々絶エルトアラザルベキナリ  
旧世界ノ諸國ガ領受シ保存スベキ貴金屬ノ割合ハ其地ノ人口商業貨財貨幣ヲ節スルノ方法ノ巧拙國風及ビ盛衰興廢等ヨリ自ラ定マルモノナリ

故例ヨリ印度ニ貴金屬ノ流出ハ水綿ノ價直貴カリシガ為メニ或ハ盛ナリシヲモアリ目今支那ニ流出スルモ生糸ノ價直貴キガ為メニ其勢甚シキヲモアラシ然レバ水綿ノ如キモノ寧テアラザルモ印度ノ流出ハ必ズ起ルベシ貿易ノ大本タルベキ貨物ニ於テ變化ハ常ニ起リ職業ハ日ニ月ニ方向ヲ變改セリ若シ印度ニ於テ水綿ヲ以テ銀ノ欠乏ヲ補フ能ハザルニ於テハ必ズ他物ヲ産シテ之ヲ補ヒタルナラン我邦ヨリ水綿ヲ産出スル事ハ

合衆政治ノ基ヲ置キシ以前ニ在リ其前ニハ青藍ヲ産シ目今ハ又々意外ノ産物ヲ播殖セリ職業ノ移リ物産ノ變スル其レ此ノ如シ故ニ印度ト雖モ要求セラル、所ノ諸物ヲ發生スルヲ得ベカラザルノ理ナシ見ルベシ印度ノ輸出表中ニ於テ從前小麥ノアルヲ見ザリシニ目今ニ於テハ英國ニ小麥ヲ輸入スル國中第一三等ニ位シ其上ニ立ツモノハ獨リ峨囉ト合衆國トノミナルナ

米別内乱ノ時ニ當テ印度ノ水綿ノ輸出甚ダ多ク之カ為メニ印度ニ注入セシ貴金屬ノ額莫大ナリシカバ貴金屬ノ分量ヲ頗カニ膨脹セシメタルヲ疑ナシ然レバ此事ナシト雖モ永遠ニハ必ズ此富ヲ印度ニ領受スベキナリ既ニ富マバ又ク將ニ其保持スベキ貴金屬ノ割合ヲ増進セシムベキナリ若シ他ニ印度ノ位格ヲ進接セシメシ事情アラバ其効驗ハ又ク貨幣ヲ多ク吸引スルモノナ

リ当百紀ニ於テ英國ノ支配ハ印度ノ貿易ヲ繁昌シ殷富ノ進捗  
シタリシ事ハ疑ヲ容ルベカラズ蓋シ印度ハ外國ノ屬地トナリ  
テ刀劍ノ光ヲ以テ制馭セラレ、有様ニシテ英國ノ政度亦多非  
議ヲ受クベキ事極メテ多カラシ然レモ前時ノ有様ニ比セバ必  
ズ幾層ノ良政ニシテ人民幸福ヲ樂ムト云ハザルベカラズ  
改則ヨリ亜細亞ニ貨幣ノ流出スルヲ滔々トシテ絶ユル期ナキ  
ヲ見バ則チ改則ハ新世界ヨリ直ニ貴金ヲ領受スルガ為メニ亜  
細亞ニ比スレバ常ニ多量ノ貨幣ヲ保持スルヲ明知シ得ベシ  
其レ貨幣少ケレバ貨銀低ク物價廉ナリ亜細亞ノ貨幣ヲ吸引ス  
ルモノハ物價ノ廉ナルガ為メナリ改則製品ノ要求如何ニ盛ナ  
リト至モ豈ニ能ク此貨幣ノ欠乏ヲ塞キ此富大ニシテ且ツ勉勵  
ナル人民ヲシテ不可考ノ昔ヨリ慣レ來リタル貴金ノ要求ヲ止  
メシムル程ノ勢力ヲ有スルヲ得ンヤ

十二

改則ヨリ亜細亞ニ流出スベキ貴金ノ總高ハ改則カ他ノ地方ヨ  
リ領受スル所ノ貴金ノ總高ニ從テ多少アルヲナリカリホルニ  
ヤ及ビナリストラリヤノ金礦未ダ發見セラレザル以前則チ千  
八百四十八年以前ニハ西班牙領亜墨利加ノ金礦ハ改則ニ貴金  
ヲ補給スルノ本源ニシテ亜細亞ヘノ流出モ其鑿出ノ高ニ從テ  
多少アリタリ當百紀ノ初メニ當リテホムホルト氏ハ其年々ノ  
産出ヲ四千三百万弗ナリト算シ亜細亞ニ運搬スル金高ヲ二千  
五百万弗ト算セリ千八百零九年ニ於テ西班牙領亜墨利加ニ内  
訖ノ起リシガ為メニ其産出ハ大ニ減少シ從テ亜細亞ヘノ運搬  
モ減セリ此事ハナツソリ、リ、氏ノ著述セル千八百六十三年刊  
行銀貨東流ト題セル書中ニ詳カナリ但シ其論ハ全クエゴノミ  
スト新聞ト同一ニシテ誤解ヲ免カザルモノナレバ其事ハ則  
チ據ルベキナリリ、氏ノ曰ク

千八百十四年以前ニハ一般ノ物情ニ関シテ大ナル変異有セシ  
シナナク此年ニ至リテ東印度商社（高社ハ英國ニ於テ東印  
度ト貿易スル特許ヲ得タ  
ルモノ）ノ特許ヲ解キシカ為メニ英國ヨリノ輸入大ニ増加シ  
銀貨ノ流出漸次ニ減少シ千八百三十二年及ビ三十三年ノ兩  
年間ニハ殆ント其輸出スルモノナキニ至レリ此時ヨリ其潮  
流時々縮張アリテ終ニ千八百四十九年同ジク五十年ノ頃ニ  
至リテ流出ノ勢最モ甚シク印度ニ於テ物價ノ平均ヲ米々サ  
ンカヲ恐レシムル程ノ多量ヲ輸出シタリト

印度ガ英國及ビ支那ニ對スル貿易ノ報告書ヲ閱スルニ數年  
間西國ヨリ平均一千万磅ノ貿易差高ヨリ印度ニ輸入セシトナ  
示セリト

千八百十四年ノ後英國ヨリノ輸入大ニ増加セシモノハ東印度  
商社ノ特許ヲ解キシニ基カズ米州ヨリ銀ノ注入スル勢大ニ衰  
零セシヨリ千八百零八年ヨリ改則ニ於テ貨物ノ直段大ニ低下  
セシカ為メナリホムボルト氏ハ當百紀ノ始メニ當テ米州ニ於  
テ銀ノ産出ハ年々七百零七万千八百三十一磅ノ平均ヲ保ツト  
算セリヂヤコブ氏ノ説ニ「此年々ノ平均高ハ千八百零八年ヨリ  
千八百二十九年ニ至ルマデ大ニ減少シ三百十万九千磅トナリ  
從テ改則ヨリ亜細亞ニ運搬スル金高モ減少セリト記セリ斯ク  
物價ノ減少シタレバコソ印度ヨリ輸入ヲ減少シ改則ノ貨物ヲ  
多ク印度ニ輸出セシムルニ至リシナリ千八百十四年ノ後英國  
ヨリノ輸入増加シ銀ノ流出減少セシモノハ全ク之ガ為メナリ」  
千八百四十九年同ジク五十年ノ後貴金ノ流動ハ更ニ勢ヲ得  
リ此時既ニ東印度商社ノ特權ハ解放シテ英國ヨリノ輸入ヲ制  
限スルモノアルナシ然レモ猶ホ此ノ如キナリ千八百五十年以  
後改則ハ餘分ノ銀貨ノミナラズ金貨マデモ流出セリ是全ク刊

1 ストラリヤ及びカリホルニヤノ金礦ヨリ産出多キガ為メニ  
餘分ノ金アレバナリ而シテ又金ヲ以テ多ク流通ヲ助ケシガ為  
メニ餘分ノ銀アレバナリ

千八百四十九年四月三十日前五ヶ年ト其後五ヶ年トヲ比較  
ルニ世界ノ諸國ヨリ印度ニ貴金ノ輸入セシ至高ハ八百五十七  
万八千五百七十二磅ヨリ一千八百九十三年ハ六百零一磅ニ  
墜レリ其前後十ヶ年ノ景況ヲ對照セシムルトキハ更ニ有益ナ  
ル證例アルヲ見ルベシ即チ二千零六十九万九千零九十磅ヨリ  
七千零七十二万三千三百七十八磅マデ印度ニ貴金輸入ノ増加セ  
シトナリ金礦ノ發見ヲシテ印度ニ感覺セシムルニハ少クトモ  
千八百四十九年四月三十日ノ後五ヶ年以上ヲ經ザルベカラズ  
カリホルニヤノ金礦ハ千八百四十九年ノ時ニ於テ既ニ鑿出ノ  
工業ヲ起セシカドモチーストラリヤハ千八百五十二年マデハ

唯々七百万兩ノミヲ産セリ

マクヘルソン氏著印度通商論ニ曰ク

米州ノ金礦ガ其貴金ヲ改別ニ注入スルト同時印度トノ通商  
ハ大ナル進歩ヲ為セリ此通商ナカリセバ改別ノ貨物ハ貴金  
ノ横潦ノ為メニ沈没セラルベカリシヲ幸ヒ此溢流ノアリシ  
ガ為メニ此災ヲ免カレタリ  
セホンス氏著貨幣及び交易ノ機關千八百七十二年刊ニ曰ク  
亜細亞ハ貴金ノ大ナル沈苗池ナリ改別ニ於テ不用ナル寧ロ  
有害ナル地金ノ數百ヲ提シ去リテ我商業上ノ變動ヲ未嘗  
ニ防キシ事數々ナリ旧キ時代ニアリテモ此事アリ中世ニ至  
リテ西班牙領亜墨利ヨリ産出セル餘分ノ貴金ヲ領受シテ改  
別ヲシテ其弊ヲ免カレシメタリ現今ニ至リテチーストラリ  
ヤ貴金ノ過分ヲ取り去ルモノモ亦メ亜細亞ナリ

貿易通商ヲ拒絶スルニ非ラザルヨリハ焉ク能ク西洋ヨリ東洋  
ニ金屬ノ流動スルヲ防クヲ得シヤ物價ノ高低ニ因テ貨幣ノ平  
均ヲ求メ其多キ処ヨリ其少キ処ニ至ラント欲スル勢ハ恰モ水  
ノ平面ヲ求ムルガ如シ通路ヲ絶ツニ非ラザルヨリハ全ク其平  
均ヲ破ル能ハザルナリ

サレバエコノミストク詞ヲ變ヘ文ヲ改メテ加リホルニヤ及ビ  
チリストウリヤ金礦ノ發見ノ後改別ヨリ東洋ニ運搬シタリシ  
巨額ノ金屬塊ニ銀ハ既ニ亜細亞ノ貨銀ヲ進メ物價ヲ騰貴シ其  
充滿ノ徵候現然タルニ付キ最早金屬ノ流動ハ停過スルニ至ル  
ベシ加之ナラズ返流スルニ至ルベシト數々論辯シタレ氏其論  
根柢ナキヲ確知スルヲ得ベキナリ現ニ其充實セザルノ明證ハ  
現ニ亜細亞ヘノ溢流ハ常ノ如シテ更ニ退却スル勢ナキナ  
リ貨幣ノ流動ハ改別及ビ亜細亞ノ間ニ平均ヲ生ゼンガ為メニ

起ルモノニテ平均ヲ得レ後ハ更ニ起ルナカレベシ然レ氏亞  
細亞ノ消耗極メテ多カラシニハ改別ハ常ニ之ヲ補給セザルヲ  
得ザルベシ之ヲ管ヲ通シタルニ桶ノ内ニ水ノ平面ヲ求ムルニ  
譬フ若シ此一桶ノ中ニ水常ニ注入シ一桶ノ中ニ水常ニ流洩セ  
バ其管中必ス流動アルベシカリホルニヤ及ビチリストウリヤ  
ノ發見ハ亜細亞ヘ補給スルノ額ヲ増スモノナリ然レ氏決シテ  
改別ノ増額ヨリモ多量ニ増加スル能ハザルベシ此發見ハ貨銀  
物價ヲ騰登シ騰逸雅趣ノ愛ヲ増進セシムルモノナリ然レ氏改  
別ニ於ケルヨリモ多量ニ亜細亞ヲ進捗セシムル能ハザルベシ  
若シ亞細亞ガ前時ヨリモ多量ニ改別製品ヲ消費セバ改別モ亦  
夕前時ヨリモ多量ニ東洋ノ製品ヲ消費スベシ亞細亞ハ千八百  
四十八年ヨリ以降ニ改別ヨリ金貨ノ為メニ馳逐セラレタル銀  
貨ノ適當ノ配賦ヲ受ケタリ是レ欠乏アリシガ為メニ此補給ノ

来リシナリ一桶ノ中ニ水平止ルトキハ必ズ他ノ桶中ニ上ルベシ而シテ後兩桶共ニ前時ヨリモ高度ニ上ルベシ若シ一桶ヨリ常ニ水ヲ注ハセバ流動ノ方向ハ常ニ変スルヲナク又夕決シテ変異スルヲナカルベシ絶エズ流洩スル桶中ヨリ返流スルノ勢ニハ必ズ起ラザルベキナリ

千八百七十年マデ二十年間改削ヨリ亜細亜ニ注流セシ二億二千七百万ステルリングニ就テエコノミストハ此金高ハ此時ノ間ニカリホルニヤ及ビホリストラリヤヨリ産出シ改削ニ注ハシタル價格ノ七割ニ當レリト曰ヘリ然レ氏熟ラ之ヲ思ヘバ同時間ニ世界ニ於テ産出セシ貴金ノ唯ダ二割九分ニ當レリ故ニ良シヤ亜細亜ガ改削ヨリ領受シタル二億二千七百万ステルリングノ餘ニ更ニ<sup>黄</sup>金国ヨリ直チニ領受シタルモノヲ加入スルモ亜細亜ノ殷富商業及ヒ人口ニ比セバ適當ノ割合ニ超エタリト

ハ見エザルナリ

英國銀貨取調委員ノ意見

英國ト印度トノ通商並ニ印度ニ関シテノ英國ノ財政ハ亜細亜及ビ西世界ノ關係ノ一部分ニシテ千八百七十六年ノ英國銀貨取調委員ノ報告中最モ主位ヲ占メタル一論題ナリ蓋シ亜細亜一般殊ニ印度ニ於テ銀ヲ要求スルヲハ銀ノ商品及ビ金ニ對スルノ價格ヲ定ムルニ至要ナレバ報告中ニ此論題ノ主位ヲ占メタルハ至當ト云フベシ

此委員ガ記載セル所ニ據ルニ印度政府ガ公債ノ利子トシテ英國ニ拂フベキ金額及ビ政治ノ費用トシテ英國ニ仕拂フベキ金額ハセボイノ戦前ハ僅カニ四九百万ステルリングナリシモ千八百六十年及ビ千八百六十七年ノ際ニ九百万ヨリ千百万ステルリングノ巨額ニ上リ千八百七十六年ニ於テハ千九百万ステ

歳  
百



ルリング則チ七千五百万弗ノ多キニ至レリ委負ノ昏ニ於テ之ヲ證スベシ

印度ニ於テ改羅巴人ヨリ請取レル貨幣ハ前時ヨリモ其国ニ存留スルモノ少シ此国ニ来リテ貸財ヲ蓄フルモノノミナラズ此国在苗ノ官吏及ビ住人ヨリ種々ノ事情ニ由テ英國ニ廻漕スルモノ多シ如此キ事情ヨリシテ英國ニ返流スル高ハ英國ヨリ為替手形ヲ以テ印度ニ振当テタル金高ト殆ント均一ナリ故ニ商業上ノ結算ニ際シ印度が要求スベキ價額ヲ大ニ減少スルモノアリ若シ此事愈ヨ増加シタランニハ銀ノ要求モ從テ減少スベシ

委負ハ又夕千八百七十二年三月三十一日マデ四年間印度ノ高品ノ輸出高ハ概算スルニ二億二千四百万磅ニシテ商品ノ輸入高ハ概算スルニ千四百万磅ナリ故ニ交易ノ差高ハ前時ト大ニ

異ナルモノナシ然レモ此差高ヲ結済スルノ方法ハ大ニ異ナレリ前年ニ於テハ英國ハ金銀ヲ以テ四千万磅ヲ拂ヒ公債利子徴収ノ為メニ振出セル政府手形ヲ以テ二千九百五十万磅ヲ拂ヒリ後年ニ於テハ英國ハ金銀ヲ以テ千六百五十万磅ヲ拂ヒ政府手形ヲ以テ五千零五十万磅ヲ拂ヘリサレバ印度が年々償花スル所ノ利子ハ貨幣ノ注入ノ高ヲ減少スルモノナリ故ニ印度ニ於テ銀貨ノ要求ハ絶エズ盛ナリト雖モ更ニ目ヲ轉シテ英國ニ拂フベキ金高アルトヲ注意セバ此金高ハ銀ヲ運搬スルハ代價トナルトハ確證スルヲ得ベシト

抑モ此論題ハ世界ノ諸国ニ関シテハ左程ニ重事ニ非ラズ唯リ英國ニ関シテハ最モ緊切至要ノ事柄ナリ而シテ印度ハ全ク英國ト痛養利害ヲ異ニセリ印度ニ於テハ公債ノ利子年々ニ増進スル為メニ貨物ヲ送り銀貨ヲ買フテ以テ其貨幣ノ欠乏ヲ補給

大蔵省

セザルベカラズ何トナレバ貨幣ハ元テ他ノ諸物ノ如ク不足アレバ常ニ補給セザルベカラザレバナリ  
貨幣トシテ銀貨ノ印度ニ輸入スルハ即チ此論題ノ関スル処ニシテ其他ノ目的ニテ輸入ノ連続スルハ此書ニ説カント欲スル処ニ非ラザルナリ英國委員ノ説ニ曰ク粧飾品ヲ貯藏スルノ念ハ印度ニ盛ニシテ此目的ヲ以テ銀貨ヲ輸入スルガ為メニ他ノ輸入品ヲ排除スルニ至ルト

此事左モアラソ然レバ印度ノ通貨ハ銀貨ナラレ限りハ此銀貨幣ノ総額ハ英國ヘノ負債ノ高増減スルモ錫鉢モ増減スルヲ能ハザルベシ假令ヒ公債ノ利子トシテ貨幣ヲ輸出スルヲアルモ其適當ノ割合ヨリ減少セバ到底返流セザルベカラズ  
金屬貨幣ヲ通用セル國ニ於テ此貨幣ノ流通高及ビ其内外ニ出入スル高ハ必ズ其國內平均ノ物價ト世界ノ諸國平均ノ物價ト

ノ比較ヨリ定マルモノナリ既ニ文明ノ化ヲ得又タ商業ノ術ヲ得タル國ニ於テハ貨幣ハ必須至要ノモノタルヲ大氣ノ人畜ニ於ケルガ如シ世界ノ諸國ノ保存セル割合ヨリモ少量ノ貨幣ヲ保存セバ物價必ズ不同ヲ起スベシ故ニ其少量ヲ永久ニ保存セシテ決シテ叶フベカラズ其多量ヲ永久ニ保存セシテ亦叶フベカラズ時ニ或ハ一時ノ過不及アルベシ然レバ再ビ正位ニ復スル瞬間ノ内ニアラシ貨幣ノ不足ヨリ祭セル物價ノ下落ハ輸出ヲ増シ輸入ヲ減シ貨幣ヲ流入セシメテ其不足ヲ充タセリ又タ若シ貨幣多量ニシテ物價騰貴スルトキハ輸出ヲ減シ輸入ヲ増シ貨幣ヲ溢流セシメテ其過剩ヲ洩セリ如何ナル國民トテモ貨幣ヲ永遠ニ不足セシムル程ニ利子ヲ拂フヲナシ又タ永遠ニ過剩ヲ保持スル程ニ利子ヲ受ケルヲナシ之ヲ要スルニ永遠ノ不足及ヒ永遠ノ過剩ハ方國ノ交際ニ於テ如何ナル借貸アルモ

決シテ発スベキモノニ非ラザルナリ  
英國現今ノ地位ニ於テ一國ノ貨幣ハ債主トナリテ他國ヨリ貨  
幣ヲ受領スルモ其金額ヲ増加スル能ハザルノ的例ハ灼然タル  
ベキニ此的例ヲ顔前ニ目撃シテカテ英國ノ委實ガ印度ノ因事  
ニ関スル全論ノ骨子タルベキ要點ニ於テ如此執迷ヲ抱ケルハ  
眞ニ驚クベキナリ

千八百七十六年ノ一年間ニ英國ノ商品輸入ハ輸出ニ超ユル  
約千八億弗ナリ此過額ノ一部ハ運賃及ビ商業ノ利益ニ歸スル  
ハ必然ナルベケレト要スルニ英國ガ世界ノ債主トナリテ年々  
歳入ノ多キ事ヲ徴スベシ此歳入ノ眞ノ金額ハ若干ナルニモセ  
ヨ之ガ為メニ英國ハ他諸國ヨリモ一磅モ貨幣ノ過當ノ割合ヲ  
保持スルヲ能ハズ英國ハ迄未佛國ニ比スルニ人口ハ殆んど同  
一ナレト貨幣ニ於テ大ニ少量ノ金額ヲ有シテ大ニ約六億弗ト十

億弗ノ相違アリト唱ヘラレタリ成程英國ハ切手手形ノ使用ニ  
熟スル為メニ貨幣ヲ節スルノ術ニ於テハ佛國ヨリモ大ニ長ス  
ル處アルベキナリ斯ク貨幣ヲ節スルノ術ニ長ズルガ為メニ其  
總額ハ較々小ナリト雖モ其功用ニ至リテハ小差異アルベカラ  
ザルナリ

若シ英國ガ外國ニ貸與セル貸金ヲ一年間ニ金銀ヲ以テ取戻サ  
ント欲シ借方ノ諸國亦タ一年間ニ之ヲ償弁スルヲ得タランニ  
ハ英國ノ貨幣ノ高ハ勿論大ニ増加スルモノアラン然レモ若シ  
少シク増加ノ徵候<sup>前</sup>ストキハ直チニ溢流ノ事件發スルモノ物價  
ハ英國ニ登ルベシ英國ハ世界中最モ賣捌ヶ善キ場所トナルベ  
シ而シテ英國ノ輸出ハ貨幣平均ノ整定スルマデハ大ニ衰零ス  
ベシ

印度ニ於テルロ<sup>各</sup>貨幣ノノ總額ハ全ク物價ノ平均ヨリ定マル

モノニシテ英國ヨリ負債ノ多少ニ関セザルハ全ク此理ニ出  
ツルナリ故ニ印度ニ銀貨ノ注入スル所以ハルポーヲ鑄造スベ  
キ鑛物ヲ産出スル金礦ナクシテ之ヲ常ニ外國ニ仰クニ因ルナ  
リ  
千八百七十六年三月三十日マデ四ヶ年ノ間英國ヨリ印度ニ運  
搬セル貴金ノ総額ハ漸次ニ減少シ政府手形ノ運搬ハ増加セリ  
ト英國委員ハ記載セリ熟ラ此実事ヲ考フルニ此事決シテ相共  
ニ増減スベキモノニ非ラズ政府手形増加シタレバトテ貨幣ノ  
輸出ヲ減少スベキモノニ非ラズ今其事ヲ證サバ其誤迷ヲ知ル  
ニ十分ナランウホール街ニ来リテ公債證書ヲ購買スル所ノ田  
舎人アリ語テ曰ク公債ヲ買フノ時ニ當テ寒暑鍼正ニ華氏ノ七  
十五度ニ在ラバ利アルヲ疑ヒナシト此人ノ決意ハ寒暑鍼ヲ注  
視シ七十五度ノ時ニ當テ公債証書ノ多量ヲ買入ルヲ利トスル

ニ在リ印度ニ於テ銀ヲ要求スルト政府手形ヲ以テ印度ニ運搬  
スルトノ間兼應ナキ事正ニ寒暑鍼ト公債ノ相庭トノ如シ然レ  
モ天氣ノ晴雨ハ時ニ人心ニ感觸ヲ起スヲアリ政府手形ヲ印度  
ニ運搬スルハ更ニ之ヨリ甚シキモノナリ  
千八百七十六年三月マデ四ヶ年ノ間印度貿易ノ計算ハ英國委  
員ノ製スル処ニ於ルニ三項ヨリ成レリ第一印度ヨリ英國ニ仕  
拂フベキ公債利子ニテ印度ニ宛タル政府手形ヲ以テ徴收スベ  
キモノ第二商品輸入ヨリ輸出ノ超越シテ印度ニ仕拂ハルベキ  
交易ノ差高第三英國ヨリ印度廻漕スベキ貨幣是ナリ此三項ノ  
中孰レカ最も勢カアリテ他ノ二項ヲ制スベキモノナルカ孰レ  
カ最も勢カ少クシテ他ノ二項ニ制セラレハ先ツ決セザル  
ベカラザルノ論題ナリ英國ノ委員ハ重大ノ一項ハ年々ノ利子  
償弁ニシテ他二項ハ如何ナラントモ此利子ハ常ニ償弁セザル

ベカラズト云へリ且ツ印度ニ貨幣ヲ廻漕スルコトハ他ノ二項ノ  
為メニ制テラル、モノニシテ商品輸出入ノ差額ヨリ英國ヘノ  
公債利子勘定ヲ減省シタル後ニ残留スルモノハ即チ運搬貨幣  
ノ一項ナリト想視セリ

余が見ル処ヲ以テ此三項ノ勞カヲ較スルトキハ英國委負ガ想  
思スル所トハ至ク順次ヲ異ニセリ何レノ國ニテモ貨幣ノ要求  
ハ諸需要中至大至要ナルモノ最モ對忍スル能ハザルモノナリ  
故ニ貨幣ノ要求ハ輸出ヨリ輸入ヲ除去セシ後ニ残留スルモノ  
ニ非ラズシテ物價ヲ陟降シ輸出輸入ノ差額ヲ多少ナラシムル  
モノナリ夫レ輸出入ノ差ハ物價ノ高低ヨリ發スルモノニシテ  
物價ノ高低ハ貨幣ノ過不及ヨリ起ルモノナリ  
千八百七十六年三月マデ四年間印度ノ貨幣欠乏ハ英國ヨリ千  
六百五十万ステルリングノ貨幣ヲ廻漕シテ補充スルヲ得タリ

其前四年間。於テハ印度ハ英國ヨリ一層巨額ノ貨幣ヲ領受シ  
テ少シク其欠乏ヲ匡シタリ英國ノ委負ハ千八百七十六年三月  
マテ四ヶ年ノ間ニ印度ノ市場ハ千六百五十万ステルリングヲ  
領受シ之ニテ既ニ充分ニ平均シタレバ尙後輸出入ハ平均スベ  
シト思ヘリ然レモ若シ此報告看ヲ千八百七十六年七月五日ニ  
記載セズシテ更ニ一年ヲ遲延シタランニハ又タ尙ニ新様意外  
ノ事件ニ遭遇スベシ印度ヨリ英國ニ償弁スベキ利子ノ高ハ今  
マ方ニ千八百七十六年三月前四ヶ年ノ平均高ヨリモ増加セリ  
此四ヶ年ノ間タ貨幣ノ要求ハ其前年ニ尙テ過分ヲ注メシタル  
ガ為メニ少シク阻表スルノ景况見エシカドモ尙今ハ復タ十分  
ノ勞カト活動トヲ改獲シテ遂カニ二十年前ノ平均高ヨリモ登  
レリサレバ交易ノ差額及ビ公債利子ノ償弁ハ尙ニ其威力ノ下  
ニ服後セザルベカラズ余ハ故ニ公債償弁ハ英國委負ノ想思ス

ルが如ク印度ノ現狀ニ於テ必須ナル一項ニ非ラズシテ實ニ貨  
幣及ビ商業差額ノ二項ノ次ニ位スベキモノナリ  
物理ノ運動力ニ於ケルが如ク財政上ノ運動力ニ於テモ多キ  
者ハ常ニカ少キ者ヲ制セリ一民ガ貨幣ノ適当ノ割合ヲ保持ス  
ベキ事ハ必須ニシテ動カスベカラザルノモノナリ其負債ヲ償  
弁スルノハ心ニ欲スルモ能ハザルヲアリ必須ニシテ動カスベ  
カラザルモノトハ言ヒ難シ抑モ公債ノ事廣ク行ハルニ至リ  
シ事ハ尚ホ百年ヲ出デザルヲ以テ其經歷未タ十分ナラズトモ  
モ佛ノ如キ奧ノ如キ魯ノ如キ皆ナ殷富ノ國ニシテ教ニ其公債  
ノ多少ヲ減殺割奪セリ西ノ如キ希臘ノ如キハ方ニ舉國破産ノ  
災ニ臨メリ英國トテモ千七百九十七年ヨリ千八百二十一年ニ  
至ルマデ不換ノ銀行紙幣ノ下落セルモノ、他ニ流通スベキモ  
ノナシ大額ノ公債ヲ有スル政制ノ諸國ハ方一曠日弥久ノ公戦

起ラバ皆ナ瓦解ノ有様ニ至ランヲ知ルベキナリ此事英國トモ  
モ免カル能ハザルナリ抑モ人事ハ道ヲ異ニセズ政制ニ於テ然  
ルモノ更細更ニ於テ然ラザルノ理ナシ若シ印度ニシテ其公債  
ヲ償フ能ハザルニ至リ而シテ尚ホ其国内ニ貨幣ノ存スルアラ  
バ此際其貨幣ヲ棄却シ其公債ヲ償弁セシムルヲ得ベキカ此ニ  
至リテ公債ノ償弁ト貨幣ノ要求ノ輕重ヲ明判スルヲ得ベシ公  
債ハ更ニ好氣運ノ至ルマデ遲延スルヲ得ベシ然ラザレバ其  
金額ヲ減スルヲ得ベシ已テ得ザレバ永久償弁スル能ハザル  
ニ至ルヲモアラシ然レバ其貨幣ハ奪フ能ハザルナリ  
一回民ノ内ニ一種ノ貨幣ヲ代用シテ他種ノ貨幣ヲ奪取スル  
ハ疑ヒナク行ハレベキヲナリ人間ノ經驗ニ於テ此事教ハ効績  
ヲ呈セリ英國ハ印度ノ國主ナリ万一印度ニ於テ銀貨ノ流出ヲ  
欲セ寧ロ金貨ノ流出ヲ望ムトアラバ英國ハ金貨本位ノ制ヲ印

度ニ行フヲ得ベシ然レ此制ハ更ニ金貨交換停止ノ令ヲ英  
國ニ發セザルベカラザルノ恐レアルガ為メニ英國ハ之ヲ試ミ  
ザルベシ他ノ國民モ金貨ヲ欲望スルノ際ニ當テ英國印度共ニ  
一時ニ本位トスベキ程ノ金貨世ニアルヲナシ去レバ他ノ策ヲ  
用ヒ最モ為シ易キ法ニ因リテ印度ニ紙幣ヲ通用セシメ去令ヲ  
以テ其流通ヲ嚴令セバ印度ニ銀貨ノ溢流ヲ防クヲ得ベキノミ  
ナラズ却テ現今印度ニ通用セル銀貨ノ若干ヲ領受スル事モ為  
レ得ベケン道理上ニ於テハ英國ノ所領内何レノ地ニテモ已カ  
門ノ權威ニ限界アルヲナシ倫敦タイムス新聞ノ支配人オハ去  
夏唯ダ銀ルピーノミヲ所有セル印度ノ土民ヲシテ金ワーフエ  
リン英國貨幣ヲ以テ地租ヲ拂ハシムベシト主張シタリ之ヲ以テ  
之ヲ考フレバ實際上ニ於テモ巴力門ノ權威ハ無限ナリト想思  
セシモノナラン然レモ英國ノ執政者ハ賢明持重ノ人ナリ豈ニ

實際上ニ於テハ其威權大ニ限制セラレ、トヲ知ラザラシヤ故  
ニ常ニ吸取々トシテ之ヲ起起ヘテ進マザランヲ務ムルノ跡アル  
ヲ見ルナリ今日英國ノ所領ハ地上ヲ包環シ各異ノ宗門習俗及  
ビ人種ヲ統管スルモ全ク兵力ノミニ頼ルニ非ラズ政略ノ宜レ  
キヲ得ルモノアルナリ彼印度ノ住民ノ如ク旧習遺説ヲ固執セ  
ル人民ヲ所置スルニ突再爾ノ変革ヲ以テスルヲナシ英國ガ東洋  
ニ於テ銀貨通用ヲ現今ニ廢止セザルノ一証ハ千八百七十六年  
ニモリリタスニ銀貨通用ヲ制定シタル政府ノ公布ヲ以テ知ル  
ベシ千八百五十二年以降モリリタスハ金貨ノ本位ヲ專守シタ  
リシガ此時ニ至リテ英領セーロント同様ニ印度ノ銀貨ルピー  
ヲ以テ通用貨幣ト定メタルヲナリサレバ印度ノ貨幣ハ銀貨ニ  
テ俄カニ変改スベシトモ見エズ唯ダ漸次ニ兌換紙幣ヲ以テ代  
用シテ漸次ニ其若干ヲ蝨食シ永遠ノ後ニ至リテハ如何ナル不

大歳首

慮ノ事件ノ起シ来タサハ其時ニ至リテハ余ハ之ヲ保証セズ  
其時マデハ印度ニ要求スル銀貨ハ交易ノ繁榮スルニ旋ヒ愈  
ヨ増進スベシ交易愈盛ナレバ貨幣ヲ用フルハ愈ヨ繁シ故ニ  
直換ノ有様ニ至ルハナカルベシサレバ銀貨ノ東洋ニ流出スル  
ハ海路ノ通スル限り通商ノ妨ゲラレザル限りハ統々絶エル  
ハナカラシ公債ノ償元アリト雖モ豈ニ能ク之ヲ減少スルヲ得  
ンヤ

財政上ノ事ニ付テ印度政府ノ定説

印度ノ知事ハ千八百七十六年九月二十二日ヲ以テ財政上ノ諸  
議ヲ決裁シタリ其第六章ニ曰ク

若シ印度ノ情状静謐ナランニハ若シ印度ノ諸都邑ニ於テ異  
常ノ事發セザランニハ又タ外國ヨリ大金ヲ負債セザランニ  
ハ世界ノ諸國ト其貿易ヲ結濟センガ為メニ印度ハ多量ノ貨

幣ヲ要セザルナリ從來此地ニ於テ領受セル貨幣ハ大約ハ金  
貨ナリ千八百五十年以後印度ニ輸入セルモノハ多クハ異常  
ノ變ヨリ起レリ即チ左ノ如シ

第一クリミアノ役ニ於テ従前普士亞ヨリ得タル產物ヲ印  
度ヨリ供スルニ至レリ

第二米別ノ内乱ハ一時印度本綿ノ價格ヲ登上セシメタリ  
第三左ノ諸事ニ付キ印度ニ於テ巨万ノ公債ヲ約束セリ内

記

- 一内証平定ノ為メ
- 二堀割及ヒ官立並ニ私立ノ鐵路ノ土木ノ為メ
- 三ベンガル地方饑饉ノ為メ

此決議ハ印度ヲシテ常ニ貴金ノ輸入ヲ受ケシムル所以ハ全ク  
國內ニ金積ナキガ為メナルヲ遺却シタルモノナリ且ツ千八



百五十年以後印度ニ巨方ノ輸入アリシ所以ハ全クカリホルニ  
ヤチーストラリヤ及ビ子バダ地方ニ於テ金銀産出ノ非常ナル  
ニ根スルヲ遺却シタルモノナリ此大ナル輸入ヲ以テ異常ノ  
事ト論スルカラハ彼ノ諸國ニ於テ金銀ノ産出スルモ異常ト云  
フベキカ真ニ恠ムベシ且ツ就中外債ヲ以テ輸入ノ重ナル原因  
トナセ<sup>ル</sup>殊ニ知らズ一國民ハ外債ノ為メニ其貨幣ノ總額ヲ増  
加スル能ハザルノ真理アルヲ  
千八百四十九年ヨリ千八百七十五年マデ二十七年間英國及ビ  
世界ノ諸國トノ通商ニ於テ貨幣輸入ノ輸出ニ超ユルモノ十三  
億二千二百九十四万千五百五十五弗ナリ其内金ハ三分一ニシテ  
銀ハ三分二ニ居レリ  
此際世界ニ於テ金銀産出ノ總額ハ四十四億零三百九十六万九  
千七百五十四弗ナリ

印度ノ人口ハ英人自ラ称スル愛顧國<sup>蓋シ英國ノ保護ヲ受クル</sup>  
ト共ニ二億三千七百万人ナル由近來ノ統計ヲ以テ定メラル即  
チ世界人口ノ四分一乃至五分一ナリ  
若シ人口ノミヲ以テ此事ヲ議スルトキハ印度ハカリホルニヤ  
祭見以來増加セル貨幣ノ適當ニ超タル割合ヲ請取レリ然レモ  
貧富勤勞及ビ開化ノ度ヲ以テ平均上ヨリ考察ヲ下タストキハ  
人口ノミヲ以テ算計スルヨリ餘計ノ割合ヲ得ザルベカラズ况  
ンヤ其人民一般ニ金銀ノ粧飾ヲ好ミ且ツ埋藏ノ風習盛ナルニ  
於テチヤ  
千八百七十六年ノ英國委員ノ一人ナルマケンチー氏ノ言ニ曰  
ク  
何レノ大村ニモ必ズ銀匠アリ人若シ教箇ノルベ<sup>ト</sup>得ハ直  
チニ銀匠ヲ其家ニ召シテ粧飾ヲ造ラシム故ニ印度ノ農民ハ

荒房幣屋ニ住居スト雖モ粒節ノ數ハ遙カニ英國同ボノ人民  
ヨリモ多量ヲ所持セリ

千八百四十九年ヨリ千八百七十五年マデ印度ニ於テ領受セシ  
貨幣ハ多量ナリト雖モ未タ以テ充實セザル事ハ近ク四年間銀  
ノ價格大ニ登貴シ其前ニ比スルニ大ニ製産費用ヲ増加シタル  
ガ如クナレ氏猶ホ印度ノ要求夥シクシテ千八百七十六年間及  
ビ千八百七十七年ノ初メニ至ルマデ印度ノ之ヲ購求セシ高ハ  
遙カニ前二十七年ノ平均高ニ超越セルノ一事ヲ以テ證スベシ  
印度ハ千八百七十五年マテ二十七年間ニ貨幣ヲ吸引セシ如ク  
千八百七十六年以後二十七年間ニ貨幣ヲ吸引スベキヤ否ハ今  
之ヲ保証スベカラズ然レモ倫敦工コノミスト若クハ印度政府  
ノ固執セル想像ハ決シテ正的ヲ得ザルコトハ確然明証シ得ベキ  
ナリ

其總額ハ必然來ル二十七年間ニ世界ノ諸國ニ於テ產出セル貴  
金ノ總高ニ從テ多少アルベシ千八百三十二年ニ於テ金貨ノ印  
度ニ溢流スルコトハ殆ント察絶ノ有様トナレリ是レ則チ西班牙  
領並米利加ノ金礦殆んど產出ヲ察絶スルニ至リシカバ改別ノ  
其金礦ヨリ受了スベキ金額モ從テ少量ト成リシ故ナリ千八百  
五十年以後ニ至リ印度ヘノ流動ハ前時ヨリモ遙カニ勢力ヲ増  
セリ是レ則チ世界ノ產出前時ヨリモ盛ナルガ為メナリ  
去ル二十七年間印度ヲシテ世界產出ノ貴金ニ對スル適當ノ割  
合ヨリモ多量ヲ領受セシメタルニ付キ二箇ノ事情アリ

第一千八百五十年以後合衆國及ビ歐洲諸國ニ於テ金貨幣ヲ  
廢シ強テ紙幣ヲ流通セシメタリ此事實ニ印度及ビ他ノ金貨  
幣ノ制ヲ施行スルノ因ヲシテ此事ナカリシ時ヨリモ多量ノ  
貨幣ヲ領受セシメタルモノナリ

蒙二近年印度ノ内地ニ於テ直換ヲ廢シ貨幣ヲ用ヒテ交易ヲ  
媒助セシムルノ術大ニ開ケタリ此レ亦タ印度ニ貨幣ヲ増加  
セシメタルモノナリ

印度政府ハ千八百五十年以後印度ニ貨幣輸入ノ超越スル事ニ  
付キ只タニ異常ノ原因ニノミ注視シ此二箇ノ事情ヲ忘却シタ  
リ千八百七十六年ノ英國委任ハ後者ニ深ク注視シ其小目ヲ細  
ニ分析シタルマデノ事ナリ

千八百六十三年ニ於テリー氏ハ銀貨東流論バドレーン、チーフ、シル  
中ニ論シテ曰ク貨幣使用ノ事ハ古今ト雖モ都邑ノ外ニ行ハル  
、事ナシ故ニ更ニ二十億弗ノ貨幣ヲ注入セバ之ヲ充滿セシム  
ルヲ得ベシトリー氏ガ此策用ヲ為セシハ當時ノ人口ヲ以テ一  
億八千万人ヲ統計セルニ基ケリ然レ氏リ當今ノ統計ヲ以テ二億  
三千七百万ト定メタリ去レバマケンデー氏ノ記スルガ如ク貨

幣ヲ粒節ニ用フル事盛ナラシニハ更ニ貨幣ヲ要求スルヲ蓋シ

リー氏ノ勘案ニ超エルモノアラシ然レ氏其割合如何ナルベキ  
ヤヲ算出スルハ容易ニ做シ得ベカラザルナリ千八百七十六年  
ノ英國委任ノ引用セル微證中印度内地ノ多分ハ尙ホ貨幣ヲ給  
セザルベカラザルヲ記スルモノアリ曰ク

銀貨使用ノ事ハ大ニ印度ニ開ケタリ而シテ更ニ益々擴張ス  
ベシ是レ現在貨幣ヲ使用セル場所ニ於テ更ニ多量ノ貨幣ヲ  
得ントスル事及ビ是マデ之ヲ用ヒザリシ場所ニ於テ漸次ニ  
之ヲ使用スル事トニ依ラナリ

今マ此引証ノ大綱ヲ略言セバ印度ノ流通上ニ貨幣ヲ注入スル  
トハ今前二十七ヶ年ト同様ニ今後二十七ヶ年ニモ繁盛ナルベ  
シト言フノ意ナリ果シテ然ラバ印度ガ千八百四十九年以後世  
界ノ貴金屬出ノ總高ヨリ減シタリシ分量ヲ今後減却スベキ

ノ事情起ルベシトモ見エルナリ但シ交易上ニ於テ貨幣交換  
 停止ノ事従前ノ如ク一般ニ蔓延スルコトナシト見テノ事ナリ  
 令コ方一印度ニ於テ今後ニ金産出ノ割合ヨリモ少量ヲ受取ル  
 事アルモ銀貨ハ必ズ従前ノ如ク或ハ之ヨリモ多ク吸引スベシ  
 全一銀二ノ割合ヲ以テ貨幣ヲ吸引セズシテ全一銀三若クハ銀  
 四ノ割合トナルベシ何トナレバ印度ガ銀貨ヲ要求スル事ハ愈  
 ヲ増進スベシト思ハルレバナリ

千八百五十年以後印度ニ貨幣輸入スルノ一事ニ就テ印度政府  
 ガ明解ヲ下タシタリシ如キ異常ノ事情決シテ起リシ事ナシ勿  
 論此時輸入極メテ大ナリキ然レモ世界ノ産出高モ同時ニ於テ  
 亦大ナリ英國ト印度トヲ對照スルトキハカリホルニヤ金礦ノ  
 發見以來英國ニ於テ貨幣ヲ吸引セシ高ハ印度ニ超越スル事極  
 メテ莫大ニシテ真ニ異常トモ評スベキ程ナリ

大英及ビ愛爾蘭ニ貨幣及ビ地金銀ノ輸入セシ高ハ千八百五十  
 七年十二月前ニハ関稅局ニ於テ記録セシ事ナシ故ニ千八百五  
 十八年ヨリ千八百七十五年マデ十八年間貴金輸出入ノ事ニ関  
 スル官表ヲ茲ニ示スベシ其計表左ノ如シ

	輸 入		輸 出	
	金	銀	金	銀
合計	三三一、二一七、一五二磅	一八五、八五八、五九五磅	二五二、一五三、四〇二磅	一七二、五五五、四七〇磅
	五、一七、〇七五、七四七磅		四、二四、七〇八、八七二磅	

千八百七十七年マデ九年間貨幣輸入ノ輸出ニ超エシ高ヲ以テ  
 其割合ニ準シ千八百七十五年マデ二十七年間ヲ推算スルニ輸  
 入ノ超高ハ一億三千八百五十五万零三百十五磅ナリ四并八十  
 五セントヲ以テ一磅ト定メ之ヲ算スルトキハ七億六千八百九  
 十六万九千零十四弗ナリ 同時ニ印度ニ於テ輸入ノ輸出ニ超

エシ高十三億二千二百  
口ハ大英及ビ愛爾蘭ヨリモ七八倍ナリト思考シ印度ハ千八百  
四十八年以後銀ヲ購求シ之ヲ鑄造シテ始メテ其貨幣ノ大約ヲ  
造リ英國ハ千八百四十八年ニ於テハ既ニ善良ナル貨幣ヲ所持  
シ之ガ消耗ヲ補フガ為メニハ貴金ヲ要スルヲ思考シ且ツ  
印度ハ貨幣トシテ用フルヨリモ他ノ目的ニ銀ヲ使用スルノ事  
情アルヲ思考スルトキハ英國ガ七億六千八百九十六万九千  
零十四円ヲ吸引スルヨリモ印度ガ十三億二千二百九十四万千  
百五十五円ヲ吸引スルヲ却テ証明スルニ容易ナルベシ英國ノ  
富如何ニ印度ニ勝ルモ一人ニ付キ印度ヨリモ四倍餘ノ貴金ヲ  
吸引スルヲ奇恠ト云フベシ貨幣若シタハ粧飾ノ具トシテ貴金  
ヲ用フルヲハ必ズシモ富有ト開化ノ増進ニ平行シテ増加スベ  
キモノアラズ佛ハ常ニ英國ヨリモ一人ニ付キ多量ノ貨幣ヲ有

セリ故ニ印度ニ於テ新タニ直換ヲ廢絶シタル地方ニハ一人ニ  
付キ英國ヨリモ餘分ノ貨幣ヲ要スルヲハ必然ノ事ナルベシ  
千八百五十年以後印度ニ貨幣ノ流出セシハ真ニ異常ノ件ニ因  
縁シ以後永遠ノ流動ハ必ズ英國ニ公債約定ニ根底スベキモノ  
ナランカ果シテ然ルカ是レ將來金屬ノ價格殊ニ銀ノ價格ニ関  
シテ重大ノ一事ナリト云ハザルベカラズ印度政府ハ正シク此  
見解ヲ主持スト由モ若シ此見解ヲシテ實際ニ適合スベキモノ  
トスルハ印度ニ貨幣ノ流動スルヲハ業ニ已ニ停過セザルベ  
カラズ何トナレバ英國ハ既ニ信ズベキノ極点ニマデ印度ニ貸  
共シタリ後來ニ至リテ唯ダ饑饉若シ軍事オノ如ク對忍スベカ  
ラザルノ變アルニ非ラザレバ更ニ貸出スベシト見エザレバナ  
リサレバ印度政府ノ見解ハ正鵠ヲ得タルモノニ非ラズ是レ全  
ク印度ノ復歴ニ暗ク印度ノ諸國トノ財政及ビ貿易上ノ

關係ニ暗ク且ツ外債ノ動ニ就テ論理ト実験トニ背戾セル所見ヲ抱クニ因ルナリ  
夫レ外債ナルモノハ畢竟スルニ貨幣ノ形状ヲ以テ来ルモノニ非ラザルナリ一時若クハ一部分トモ貨幣トシテ来ルモノ甚ダ稀ナリ若シ能ク来ルアラバ其貨幣早晚再出スベキモノナリ若シ貨幣其国ニ入ラバ物價必ク登貴スベシ物價登貴セハ商品ノ輸入ヲ増加シ商品ノ輸出ヲ減少スベシ是レ確然不拔ノ理ニシテ動カスベカラサルモノナリ故ニ一回ニ於テ保持スベキ貨幣ノ総額ハ一時或ハ外債ノ如キ異常ノ事ヨリ増加スルアハルベシ然レ其国永遠ニ保持スベキノ金高ハ必ク物價ノ階級ヲ保持スベキノ金高ナラザルベカラズ抑モ貨幣過多ナレバ物價必ク昇ルベシ過少ナレバ物價必ク下ルベシ商業世界ニ在リテ他ノ諸国ト通商スルノ国々ニ於テハ貨幣過不及ノ事決シテ

永ク保續スベキモノニ非ラズ物價ノ階級ヲ保持センガ為メニ貨幣ノ総額自ラ定マルモノアルナリ  
最モ産ニ賣捌キノ地ニ於テハ最モ貴ク其中心ノ地ニ於テハ物價ハ又タ夫々ノ高下アルベシ其高下ヲ階級ト稱スルナリ抑モ此階級ハ必ク永遠ニ保續スベシ若シ此階級一時混乱シテ最下ノ地ニ於テ物價一時上ルアラバ貨幣ハ必ク溢流シテ適當ノ原位ニ復スベシ貨幣ノ功用ニ就テ總テ精美ナル釈義ヲ説カバ唯ダ簡易ニ之ヲ言ハバ左ノ數言ヲ以テ十分ナラン曰ク貨幣ノ総額ト物價ノ間必ク動カスベカラザルノ關係アリ商業国ノ通商ニ於テ物價ノ平均ヲ求ムル性質ハ貨幣ノ流動配布ヲ管理スルモノナリト  
此平均ヲ妨グルノ事情亦タ數種アリ貨幣ノ金屬一局所ニ產出シテ一國ニ於テ專ラ之ヲ受セシ一例ハ此事情ノ一トシテ算スルヲ得ベキナリ西班牙ニ聖利加ハ殆ント三百有餘年間世

大藏省

貴金ヲ補給シタルナリ又タ西班牙ハ久シク其殖民地  
ヨリ輸出セル貴金ヲ專有シタルノ國ナリ此二國一ハ貴金ヲ産  
出シ一ハ之ヲ專有シ共ニ平均ノ勢ヲ嚴ニ妨ケタルノ事情アレ  
氏其力能ク唯々一時ヲ制シタル事ハ治ク世人ノ知ル所ナリ久  
シカラスシテ金屬ヲ産スル西班牙領亜米利加及ビ之ヲ領受ス  
ルノ西班牙ハ唯々徐々ニ外國ニ溢流セシムルニ足ル程ナケ外  
國ヨリモ多ク貨幣ヲ保持セシテ判然セリ此的例アルガ為メニ  
世人ハ抑テストラリヤ及ビカリホルニヤノ金礦發スルニ當テ  
其功厥ヲ前知セリ此地方如何ニ産出ノ貴金ニ富ムモ貴金價格  
ハ階級ナルモノアリテ常ニ其總額ヲ制限セリ若シ此限界ノ餘  
貴金増加スル事アラバ此貴金ハ全ク貨幣ノ功用ヲ失フニ至ル  
ベシ而シテ其價格下ルテ甚レク從テ其流出亦タ多カルベシ是  
ヲ以テ此階級ヲ乱ラザル程ノ總額ヲ常ニ保持スルモノナリ其

レヨリ以上ハ保持セント欲スルモ能ハザルベシ  
貨幣ノ平均ヲ一時混乱スベキ今一ノ事情ハ万国公債是ナリ此  
事情モ亦タ唯々一時ノ事ニシテ早晚ニ平均ニ復スベシ其事ハ  
外債ヲ負フ所ノ國ト至モ畢竟ハ餘分ノ貨幣ヲ得ルヲナキノ実  
例數々タルヲ以テ明カナリ我合衆國モ内乱ノ時ニ當テ外債ヲ  
起ス一多シ之ヲ借受クルノ際ニ當リ貨幣ハ外國ヨリ輸入スレ  
事ナク却テ輸出スルノ实例アリタリチーストラリヤノ实例ハ  
亦タ我國ニ同シ其金礦ノ産出巨万ナルガ為メニ外債ヲ起スモ  
却テ貨幣ヲ輸出シタリ英國ノ銀行主及ビ製造人等カ利ヲ得シ  
トノ主意ヲ以テ勸誘シテ英國ト貸借ノ約定ヲ取結ヒタリ然レ  
氏此約定ハ英國ヨリチーストラリヤニ貨幣ヲ廻送セズシテ却  
テチーストラリヤヨリ英國ヘノ流動ハ平生ノ如ク依然トシテ  
減少スル處ナカリキ嘗テ一、亦タ數多ノ礦山ヲ有スルノ國ナ

リ外リニヤノ戰後其信ヲ損ズルノ極点ニマデ外債ヲ起セ  
リ此莫大ナル外債ト其内地ノウラル及ビシベリヤノ貴金ヲ合  
併セバ其國中多量ノ金銀ナカルベカラズ然ルニ流通上ニ唯ダ  
紙幣ノルীগアルノミヲ見ルハ何ゾ要スルニ外債ヲ起スノ因  
多シト至モ貨幣ノ乏ガ為メニ輸入スルヲ見ズ唯ダ印度ノ一例  
アルノミ故ニ印度ノ輸入多キハ外債ヲ為メニ非ラズ必ズ他ノ  
原因ニ歸セザルベカラズ

今マ余ハ外債定約ノ事ニ付キ借方ノ因ヲ論説シタルニ付キ莫  
ニ進ンデ貸方ノ因ニ付テ論ズルモ同様ノ事情アルヲ見ルナ  
リ貸方ノ國民ハ決シテ貨幣ヲ分共スルノ事アラザルナリ英國  
ハ去ル五十年以來大ニ外國ニ貸共シタルニ其貸附ケタル金高  
ク国内ヨリ分共シタルニ非ラズ其保持スル金額ハ従前ト更ニ  
異ナルヲカシ其貸付トハ唯ダ借受タル人民ヲシテ其買込タ

ル商品ノ代價ヲ仕拂フガ為メニ手形ヲ振出サシメタルマデナ  
リ故ニ其真ノ有様ハ英國ノ鉄石炭水綿及ビ其他ノ物品ノ代價  
及ビ利益ヲ円數円數トハ小數ヲ除キ去リ千トカト為シテ外債  
万トカ云フ如ク大數ヲ云フナリニ變シタルナリ借方ノ國民ハ貨幣ヲ得ルヲナク唯ダ其商品ノ  
輸入ヲ増加シタルノミナルヲ以テ英國モ亦タ貨幣ヲ分共セズ  
シテ唯ダ其輸出ヲ増加シタルノミナリ前ノ英國大藏卿コッ  
ルボートウヘル氏が英國ノ外債約定ノ事ニ就テ其実験ヲ記シ  
タル文章ハ數々引証セラルモノナレバ世人ノ善ク知ル処ナ  
ルベシ英倫銀行ハ大藏卿ニ勸メテ英國ハ成ルベキ丈ケハ外債  
ヲ許スヲ利益アリ然レ氏倫敦ヨリ貨幣ヲ取出サル仕組ニテ約  
定ヲ取結ガフ所要ナリト云ヘリ

近年日尔曼ヨリ佛國ニ徵課シ佛國ヨリ數月間ニ仕拂ヒタル償  
金ノ結算ヲ目撃スルトモ貨幣ノ平均ヲ混乱スルヲ如何程ニ



嚴烈ナルモ經濟法ハ盡く貨幣ヲ原位ニ復スルノ速カナルヲ  
チ知ルヲ得ベシ此續金ハ倫敦及ビ其他ノ場所ニ宛タル為替ト  
實貨トヲ以テ仕拂ヒタリ佛ハ之ヲ拂フニ付テ外國ヨリ貨幣ヲ  
借受ケシ事ナシ然レモ佛ハ之ヲ拂ヒシ始メト同様ニ之ヲ拂ヒ  
シ後ニ於テモ金銀ヲ所有セリ故ニ日尔曼ハ此事ニ就テ終始金  
銀ヲ得ザリシガ如キ有様ナリ日尔曼ニ於テハ貨幣注入スルヤ  
否ヤ物價登貴シテ直ニ貨幣ヲ流出セシメタリ佛蘭西ニ於テハ  
之ニ反シテ物價下落シ商品ノ輸出増加シ續金トシテ仕拂ヒタ  
ル凡テノ貨幣ヲ取戻シ且ツ此輸出増加シタルが為メニ物産大  
ニ起リ職業大ニ進歩シタリサレバ我合衆國ニ於テ外債ヲ拂フ  
ニ決定スルモ亦タ此实例ヲ見ルベキノミ斯ク日尔曼佛蘭西ノ  
間ニ貨幣ノ平均ハ唯ダ一時續金仕拂ノ事件ノ為メニ混乱セラ  
レシ事ヲ見バ先年英國印度ノ間ニ取結ビタル貸借ニ於テ印度

政府が千八百七十六年九月ノ決議第六章ニ論ズルが如キ感觸  
ハ決シテ起ラザルベキナリ  
印度ニ貨幣ノ輸出スルハ印度ノ木綿多ク輸出スルト英國ヨリ  
印度ニ貸出ノ多キトニ因ルモノナリト明解スト茲モ少シク此  
事ニ注目スルハ貨幣ノ輸入ハ却テ木綿ノ輸出ト貸出トニ先  
タツトヲ認メ得ベシ  
千八百六十年ニ於テ米洲木綿ノ産出ハ實ニ未曾有ノ巨量ニシ  
テ世界ハ既ニ此木綿ヲ以テ充實セラレタリサレバ米洲内乱ノ  
為メニ印度ノ木綿ヲ輸出シタリシ商人ガ利益ヲ得タリレ事ハ  
千八百六十二年ニ至リテ始メテ起レリ其以前ニハ決シテ此事  
ナシ印度ガ直接直接ノ字ハ抵ナシ意味ナラシニ若クハ鉄道及ビ掘割ノ抵  
當ヲ以テ英國ニ負債セシハ重ニ千八百六十二年以後ニ起リ此  
貸金ニ付テ取立ツルノ一考ニ金額ハ此年四百方ステレルリシナ

大蔵省

リシニ千八百七十六年ニシテ、千九百五十万スレリングノ巨額ニ上レリ千八百四十九年四月三十日以後八年間ハ印度ハ英國ニ直接ノ負債ナシ此時鉄道掘割ノ抵当ヲ以テ借受タル金額ハ唯ダ七百四十万六千二百四十スレリングノミ千八百四十九年四月三十日ニ於テハ印度ニ貨幣ノ輸入セシハ唯ダ二千零六十九万九千零九十磅ナリシニ其後十年ニ至リテハ俄カニ七千零七十二万三千三百七十八磅ノ巨額ニ増進セシハ印度政府ノ附會セシ事情ヲ以テ解釈スル能ハザルベシ北候ノ事件ニ先ルハ余之ヲ聞ク結果ノ原因ニ先スルハ余未ダ之ヲ聞カザルナリ

魯士亞ノクリミア軍事ニ関スルノ際印度ハ其産物ヲ價善ク賣捌キタルガ為メニ多少利益ヲ得タルヲ疑ヒナシ然レ氏千八百七十五年前二十七年ノ中ニ唯ダ二年間軍事ニ関涉シタリトテ

此ヲ以テ異常ノ事件トハ稱シ難カルベシ万一二十七年間大約連戦シタレバトテ余ハ之ヲ以テ異常ト云フ能ハザルヲ見ルナリ見ヨヤ今マ魯ハ無限無量ノ戦闘ヲ世ニ起サント備具セルヲ英ノ古哲嘗テ言ヘルアリ戦争ハ人間固有ノ常状ナリト若シ現時ヲ以テホツベスノ時ニ比セバ戦闘ノ数大ニ減少セシトテ証スルヲ難カラズ将来人間界ノ更ニ改良セント亦タ希望ムベキナリ然レ氏二十七年ノ内唯ダ二年間戦シタルヲ以テ是レ希有ナリ異常ノ変ナリト稱スル程ニ現今ハ未ダ進歩セザルヲ如何セン現今ノ世態ニテハ此ホハ尋常ナリト云ハザルベカラズ

米州内乱ノ際及ビ之ニ繼テ起リタル南部職夫ノ改革ノ際ニ当テ印度水綿ノ價格大ニ騰昇シ大輸出大ニ増加シタリシ事ハ真ニ異常ノ事件ナリト云フベシ也此戦ハ其源由及ヒ此戦ニ蔓延シ

蔵  
卷

度ヲ論セバ之ヲ異常ト稱スルモ証言ニ非ラズ然レ氏二十七年  
間ノ印度商業ノ景況ヲ審思スルハ千八百六十二年以後木綿  
商業ノ印度ニ興立セシハ其前時ニ當テ印度ノ諸輸出物(木綿ヲ  
モ籠メテ)ノ價格低下ノ事アリ輸入品ノ價格高貴ノ事アリテ之  
ガ為メニ印度貨物ノ勢價既ニ世ニ知ラレタルアルヲ察見ス  
ルヲ得ベシ商業上ニ於テ諸種ノ物貨ノ浮沈ハ寧テ絶エルトナ  
シ然レ氏尋常ノ浮沈ハ高低相ヒ平均スルモノナリ印度カ貴金  
ヲ吸引スルガ如キハ永遠ノ昔ヨリ今日ニ連綿タルモノナリ之  
ヲ明解スルニ就テ唯ダ一時ノ事情唐突ノ変異ニ歸スルハ疎  
ナリト云ハザルベカラズ

東洋及ビ印度ニ貴金ノ溢流ヲ保續セシムベキ事情ハオーストラリア灣流シコ  
湾中ニ潮流アリノ方向ヲ決セシムル所ノ米州大陸ノ地勢ノ如ク  
確然不動ノモノニ非ラズ地勢ノ縱横ハ肉眼ニ判然タレ氏礦中

ノ有無ハ地心ニ埋没スルヲ以テ決シ易カラズ焉ソ知ラシ向後  
新々發見スル処アリテ貴金ヲシテ旧世界ヨリ新世界ニ流動セ  
シノ四百年來ノ実事ヲ反覆セシムルニ至ラザルヲ然リト雖  
モ永遠ノ後ニ至リテハ人知ハ之ヲ究ムルニ由ナシ唯ダ眼ヲ今  
時ニ關係アルベキ將來ニ注カバ余ノ信ズル処ハ更改スルトナ  
カルベシ金屬ノ流動ハコロンブスノ旅行以後ノ如キ方向ヲ以  
テ統々絶エルトナカルベシ且ツ其旧世界ニ配布スルモ從前ノ  
如ク人口殷富勤勞嗜好習俗及ビ金礦ノ有無ニ因テ多少アルベ  
シ余ハ其ノ然ルベキヲ保ツト再云フ

金屬貨幣ニ關シテ國憲ニ製定セル合衆國議院及ビ諸州  
ノ權

貨幣ノ事ニ關スル合衆國ノ憲法ハ左ノ如シ  
第一 幣ヲ鑄造其價格ヲ整定スルノ權及ビ外國貨幣ノ價格

ヲ整定スルノ權此ニ權ヲ議院ニ專許スベシ鑄造ノ權ハ全ク議院ニ存シテ諸州ノ之ヲ為スヲ禁ズ外國貨幣ノ價格ヲ整定スルコトハ亦タ諸州ノ之ヲ行フヲ禁止ス然レモ議院ニ於テ之ヲ整定セザルトキハ諸州ハ之ヲ行フノ權アリ  
第二諸州共ニ金貨及ビ金屬貨幣ニ非ラザルモノヲ以テ貸借ヲ決濟スベキ法貨ト為スヲ禁ズ

合衆國ノ憲法ハ右ノ如クナルヲ以テ法貨ヲ定ムルノ權ヲ專ラ議院ニ許スノ特別ノ款項ナレ之ヲ鑄造スルニ付テハ特別ノ款項アリトモ其貨幣ト為スベキモノヲ定ムルノ特許ナレ故ニ茲ニ引証スル諸州ニ関スル條款ヲ細視スルニ合衆政府ハ金屬貨幣ヲ主持スルハ政府ニシテ金銀ハ憲法上ハ貨幣タルベキトハ判然タリトモ其孰レヲ法貨ト定ムベキヤハ諸州ノ保有セル權限ノ一ナリト認メタルヲ疑ヒナレ諸州ハ特ニ法貨ヲ定ム

ルノ權アリ而シテ金銀ニ非ラザルモノヲ以テ法貨トナスヲ禁示セザル事ナリ

故ニアルベルト、ガルラテレ氏ハ千八百三十一年ニ於テ諸州ノ制限ヲ受クルノ証例ヲ記載シタルノ後ニ云ヘルコトアリ

議院ハ人民ノ互ニ借債ヲ決濟スベキ法貨ヲ定ムルノ權ナキガ為メニ金銀ニ非ラザルモノハ法貨トナスベカラザルコト明カナリ

ウエスブルト氏ハ千八百三十六年十二月二十一日合衆國元老院ニ於テ嘖説シテ此見解ヲ更ニ廣充スル處アリ曰ク

我合衆國ニ於テハ我國鑄造ノ貨幣ニセヨ又タ外國貨幣ニセヨ議院ニ於テ整定セル割合ノ金銀ニアラザルモノハ法貨ニ非ラズ法貨トナスヲ得ザルハ疑ヲ俟タザルナリ是レ則チ憲法ノ本意ニシテ一目瞭然タル事ナリ且ツ最モ緊要ノ事ナリ諸

大蔵省

州、明カニ其借ヲ決濟スベキ、法債トシテ金銀ニアラザル  
モノヲ用フルヲ禁セラレタリ且ツ議院ノ之ヲ為スヲ禁ズル  
ノ明文ナシト雖モ議院ハ貨幣ヲ鑄造シ外國貨幣ノ價格ヲ整  
定スルノ外カ此事ニ関シテ特權アルコトナシ  
故ニ合衆國ノ國憲ヲ以テ制定シタル法債則チ價格ノ原位ハ  
既ニアルアリ之ヲ破ブル能ハザルナリ故ニ余ハ飽マテ議院ニ  
於テ定メタル割合ノ金銀ハ合衆國價格ノ原位ニシテ議院モ  
諸州モ他ノ原位ヲ定メ此原位ヲ擴張スルノ權ナキコトヲ主張  
マント欲スルナリ

此等ノ説ト同一ナル主意ハサウンデルスニ對スルヲクデンノ  
訴訟ニ於テ合衆國上<sup>シニアムコルト</sup>等裁判所ノ主持セシ所ナリ(ホイートン第  
十二卷二百六十五丁ヲ見ベシ)且ツ法債<sup>リカレン</sup>訴訟<sup>ス</sup>ニ於テ裁判官ク  
リホルド氏及ゴフコールド氏ノ説モ亦タ此主意ナリ(ワルシー

ス第十二卷

法債訴訟ノ時ニ當<sup>テ</sup>合衆國上<sup>シニアムコルト</sup>等裁判所ノ多数ノ決議ハ近代ノ  
事ニシテ且ツ洽ク人ノ知ル所ナレバ其性質ト其成効トヲ詳説  
スルハ無益ニ属スベシ故ニ茲ニハ特ニ此決議ハ議院ニ於テ法  
債ヲ定ムベキ特權ヲ常ニ保有スルコトヲ決定セザリシトノ事ヲ  
述ブルヲ以テ足レリトス其決定スル處ハ憲法ニ記載セル緊要  
正當ノ語ヲ意味ヲ明解スルトキハ議院ハ特別ノ事情起ルニ際  
シテハ其保有セル威權ヲ実行センガ為メニ片紙ニ法債タルベ  
キノ功用ヲ附スルモ議院ニ對シテ公明ナル禁制ヲ為スベカラ  
ザル事ヲ緊要トシ正當トスルコトアルベシトノ事ナリ故ニ此決  
議中元來我邦ノ貨幣タリシ金銀兩債ノ法債タル性質ヲ奪却セ  
シムルノ權ヲ議院ニ允許スルノ一項モナク又タ諸州ハ債借ヲ  
決濟スベキ法<sup>ス</sup>制定スベキノ權<sup>ハ</sup>合衆政府ノ國憲ヲ以テ允

許セラルル、ト定メタル一項モナシ、法債訴訟ノ時ニ當テ數回ノ  
講求ヲ要シタリシ千八百六十二年ノ法令ハ法債タルノ功用ヲ  
金銀ヨリ奪除シタルモノニ非ラズ此法令ハ若干ノ政府紙幣ニ  
法債ノ功用ヲ附シテ別ニ一法債ヲ増加シタルモノナリ而シテ  
議院ノ此法令ヲ公布シ上等裁判所ノ之ヲ異質シタルモノハ議  
院ハ紙幣ノ制ヲ施行スベキノ公權ヲ有ストノ定説ニ出ツルニ  
非ラズレテ當時ノ如キ特別ノ事情起ルニ際シテハ議院ハ其握  
持セル若干ノ權ヲ実行セシメンガ為メニ緊要ニシテ且ツ正當  
ナル具トシテ紙幣ノ若干ニ法債タルノ功用ヲ附スルヲ得ベシ  
ノ定説ニ出テタリ  
サレバ茲ニ説ク所ノ主意ヲ細視セバ特別ノ事情起ルニ際シ紙  
幣ニ法債タルノ性ヲ附スルノ權ハ議院ニ默許セラルル、所ナレ  
氏此權ヲ推シテ金銀兩債ノ法債タルベキ功用ヲ奪除スルマデ

補充スル能ハサルヲ明カナリ

金銀ハ習慣律ニ由テ合衆國ノ債幣タル事

法理書五百七十四葉ヨリ五百七十九葉ニ於テコーク氏此趣意

ニ就キ英國ノ習慣律ヲ詳論スルヲ左ノ如シ

凡ソ英國ノ臣民タル者ハ律法ヲ以テ定メラレタル地金即チ金

銀ヲ除クノ外何物ニテ造レル債幣ヲモ賣買或ハ其他ノ拂方

ニ於テ收領スルヲ拒ムノ權理アリ

英國ノ債幣ハ即チ英國ノ財宝ナリ而シテ金銀ヲ除クノ外何

物モトレシウルトローグ地中ヨリ掘出シタル債幣或ハ其地

謂ハ蓋シ英律ヲ按スルニトレシウルトローグ掘出シタル債幣或ハ其地

モ細トス可キト謂フ可ラズ

是レ則チ王ハ債幣ヲ鑄造センガ為メ律法ニ由リ金坑或ハ銀

坑ノ所有主ト為ツテ而シテ自餘金屬ノ坑ノ所有主ト為サル

此處

所以ナリ自銀金屬ノ坑ニ至テハ人民之レヲ有スルヲ得蓋  
シ其金屬ヲ以テ貨幣ヲ鑄造スルヲ得ガレハナリ  
現今ノ合衆憲法設立ノ時ニ至ル迄金銀ノ貨幣ニシテ且ツ法貨  
タリシハ則テ此諸州ヲ創立シタル英國臣民ノ此國ニ傳承シタ  
ル英國習慣律ニ拠リシナリ  
千七百四年ノ王ノ布令及ビ千七百七年巴カ門ノ之レヲ確定ス  
ル所ノ條例ハ某々銀貨ノ價位ヲ定ムルニ於テ高賣上ニ有害ナ  
ル不同ノ起リタル旨ヲ述ベ以テ此オ銀貨ノ米國殖民地ニ於テ  
通用ス可キ所ノ價位ヲ一定シタリ然リト雖モ此布令及ビ條例  
ハ勿論其他總テ殖民地ノ定律ニシテ且ツ法貨タリシヲ事實且ツ  
ル所ノモノハ金銀ノ貨幣ニシテ且ツ法貨タリシヲ事實且ツ  
律法ト看做シタル由來ス  
金銀ヲ以テ貨幣トセシ所ノ英國ノ習慣律ハ千七百七十六年我

國ノ英國ノ統治ヲ絶テ獨立スルノ時ニ方リ且ツ其後四十年ノ  
間英國巴カ門ノ何レノ條例ヲ以テモ更ニ變革セラル、トナカ  
リキ尊重ス可キ二三ノ記者ハ千七百七十四年ノ巴カ門ノ條例  
ヲ以テ銀貨ノ法貨タルノ通用ヲ二十五磅ニ過キザル金額ニ制  
限シタルモソト誤解スルニ至レリシル、ロベルト、ピールト雖モ  
亦タ千八百四十四年銀行條例ヲ論シタル其演說ニ於テ此誤解  
ニ陥リタリ蓋シ此條例ハ先ツ通用銀貨ノ摩耗シテ其量目ノ甚  
シク減シタル旨ヲ述ベシ後、二拾五磅ニ過キタル金額ヲ拂フ  
ニ銀貨ヲ用ルニ至テハ其銀子ノ負數ニ由テ之レヲ計算セズ  
シテ造幣局ノ銀價ニ基ツキ量目ニ由テ之レヲ計算ス可キ旨ヲ  
制定セシナリ金貨ノ量目輕キモノニ就テモ亦タ現今英國及ビ  
合衆國ニ於テ右ト同一ノ款條アリ是ヲ以テ銀ハ米國殖民地ノ  
英國ト分離シ庶獨立ヲ布告皇張セ、時ニ至ル迄金額ノ多寡ヲ

問ハズ全ク金貨ト同一ニ英國及ビ其殖民地ニ於テ法貨タリキ  
合衆憲法ノ設立以來金銀貨ノ貨幣ニシテ且ツ法貨タルハ大抵  
何レノ州ニ於テモ英國ノ習慣律ニ拠リシニシテ而シテ新タニ  
設ケタル定律ニ拠リシニ非ザルナリ  
子スデットニ對スル「ムックラリン」ノ南カロリナ州ノ案件（ノ  
ト、エンド、ムツコルド第二卷五百十九葉）ニ於テ該州ノ上等裁廳  
（千八百二十年）ノ曰ク  
本州ニ於テ法貨タルモノハ唯金銀ノ二種ノミ而シテ其然ル  
ハ習慣律ニ拠ルナリ  
習慣律（法理書第二卷五百七十七葉）ニ於テ唯金銀ノミ法貨タ  
リキ千七百五十二年第二月六日紙幣ヲ禁止シタル條例（南カ  
ロリナ州）ノ發行以後金銀ノ法貨ト為リシハ則チ此習慣律  
ニ拠リシナリト

金銀貨ヲ法貨ト為スハ合衆憲法ノ諸州ニ命令スル所ニ非ザル  
ナリ此ノ如キ命令ハ全ク無用ニ屬ス蓋シ金銀貨ハ既ニ法貨タ  
リキ而シテ習慣律ニ依リ合衆國ニ於テ常ニ然ルナリ然リト虫  
氏其憲法ハ他ノ何物ヲモ法貨ト為スヲ諸州ニ禁止シ以テ金  
銀貨法貨タルヲ議定シ且ツ之レヲ維持ス可キ諸州ノ權ヲ認許  
ス  
見込ニ隨ヒ金銀ノ外更ニ他ノ法貨ヲ設ルノ權ハ千七百七十六  
年第七月四日以前諸州ノ尚ホ殖民地タリシ時之レヲ施用シタ  
ルガ如ク旧時ノ結盟ノ際モ亦チ諸州ニ於テ紙幣ヲ通用セシメ  
ンガ為メニ感シニ施用セラレタリ是レ即チ革命乱ノ時結盟諸  
州ノ公會ノ特別ナル要求ニ從ヒ大洲證券ノ名ヲ以テ知ラレタ  
ル通用紙幣ヲ發行シ以テ諸州ノ施用シタル所ナリ現今ノ憲法  
ノ法貨ヲ金銀ノ二貨ニ制限セシテハ金銀ノ外更ニ他ノ法貨ヲ



設ク可キ権ヲ諸州ノ全ク保有シタルハ疑モ容レザル所ナリ  
然リト雖モ殖民地ナリシ時モ又タ結盟ノ際モ金或ハ銀ノ法貨  
タルヲ廢止セントスルガ如キハ諸州ノ曾テ企圖セザリシ所  
ナリ

諸州ハ獨リ金銀ノ一ヲ取テ法貨ト為スヲ得ザル事

合衆國ニテ鑄造シタル金貨及ビ銀貨或ハ國會ニテ價位ヲ制定  
シタル外國ノ金貨及ビ銀貨ハ法貨タル可シト確定シタル合衆  
憲法ノ制限ハ諸州ノ遵守ス可キ所タルヤ明カナルガ如シ然リ  
ト虽モ法貨トハ金ヨリ鑄造シタル貨幣若クハ銀ヨリ鑄造シタ  
ル貨幣ニ限ル可シト確定シタル合衆憲法ノ制限モ亦ソ諸州ノ  
遵守ス可キ所タルヤ知ル可キナリ是レニ由テ之レヲ觀レバ前  
文所謂<sup>ア。ン。ド。原。語。</sup>ナル語ハ接續ノ義ニ非ズシテ分離ノ義ト  
解セラル可ク而シテ恰モ左ノ文義ト同一ノ如クナル可シ

何レノ州モ金貨若クハ銀貨ヲ除クノ外何物ヲモ負債拂方ニ  
於テノ法貨ト為ス可ラズ

若シ前後連續ノ文義及ビ全文ノ事實ニ於テ分離ノ義ヲ必要ト  
スル時ハ<sup>ア。ン。ド。</sup>ナル語ヲ解スルニ分離ノ義ヲ以テシテ可ナル  
ヤ疑ヒナシ然リト雖モ人間古來ノ習慣ニ於テ且ツ合衆憲法設  
立ノ時ニ至ル迄米國ノ律法及ビ事實ニ於テ各別ニ非ズシテ連  
合シテ貨幣タリシ所ノ金及ビ銀ニ<sup>ア。ン。ド。</sup>ナル語ノ本義タル接  
續ノ義ノ正ニ適當スルヲ見レバ苟モ之レヲ解スルニ分離ノ義  
ヲ以テスルノ理由ヲキヤ明カナリ又タ此律書ヲ草セシ人々或  
ハ之レヲ確定セシ人民ハ當時一般ニ貨幣ト認視セラレタル金  
及ビ銀ノ両貨ヲ合マ思ハズシテ他ニ考ウル所アリシト想像ス  
ルガ如キハ決シテ理ノ當ヲ得タルト謂フヲ得ザルナリ  
法貨ヲ金銀ノ一ニ限リ若クハ金銀ノ両貨ヲ合マテ法貨ト為ス

モ諸州ノ随意タル可キトノ見解ヲ非斥スル所ノ論旨多シト雖  
氏就中左ノ三條ヲ曷ケバ則チ此見解ノ誤謬タルヲ証スルニ足  
ル可シ

第一條 右ノ見解ハ何レノ州又ハ總テノ州タリモ金銀兩種  
中ノ一ノ法債タルヲ拒絶スルモ可ナルノ趣意ヲ含蓄ス是  
レ全ク許容シ得可ラザル趣意ナリ蓋シ金銀ノ兩種ヲ鑄造シ  
テ貨幣ト為スハ固ヨリ國會ノ權内ニ在レバナリ

第二條 右ノ見解ニ拠レバ合衆國ニ於テ價位ノ基本ノ一様  
ナル可キハ決シテ保ス可ラザルナリ蓋シ各州ノ意ニ随テ或  
ハ金ヲ採用シ或ハ銀ヲ採用シ或ハ金銀ノ兩種ヲ合セテ採用  
スルヲ得可ケレバナリ

第三條 右ノ見解ニ拠レバ合衆國中何レノ州ニ於テモ確定  
セル價位ノ基本ハ決シテアラザル可シ蓋シ何レノ州モ今日

確定セシ本位ヲ明日廢止スルヲ得可ケレバナリ且ツ金ノ  
本位ハ元來銀ノ本位ト異ニシテ而シテ金銀各別ノ本位ハ元  
來金銀兩種ヲ併用スルノ本位ト異ナレバナリ

果シテ若シ憲法ヲシテ右ノ如キ結果ヲ含蓄セル見解ヲ下スニ  
適當ノモノナラシメバ其憲法ハ則チウエブストル氏ノ所謂「憲  
法ノ設立ニ當リ深慮セラレタル最大目的ノ一ナル一様ニシテ  
且ツ名實ノ一致セル通貨ヲ確定スルヲ錯マリタルヤ必セリ  
豈慨歎セザル可ケンヤ

千八百七十五年第三月二十二日ニ於テ紐約州ハ銀債ノ通用ヲ  
廢止スルノ新舉ニ関シ律法ヲ議定スルニ先鞭ヲ着シタリ此  
律法 千八百七十三年第二月十二日ノ貨幣條例ノ中ニ加ヘラ  
レ而シテ此律法中ニ決シテ其所ヲ得ズト雖モ千八百七十四年  
第六月ノ合衆國改正律例ノ中ニ現在セル教言ヲ補ヒテ完全

ノモノト為サレタリ今此紐約律法ノ本文ニ其名称ヲ添ヘ印テ之レヲ左ニ掲載ス

本州ニ於テ中ニテ拂フ可キ旨ヲ以テ千八百七十九年第一月一日以後取結ビタル一切ノ契約ニ付通債ノ拂方ヲ確定スル條例

第一節 千八百七十九年第一月一日以後本州ニ於テ確定賦課セル一切ノ租税ハ金貸合衆國金貸証券或ハ要求ニ應ジ直チニ金貸ト交換ス可キ國立銀行紙幣ニテ収メラル可シ  
第二節 本州ニ於テ弗ニテ拂フ可キ旨ヲ以テ而モ特ニ弗ノ種類ヲ定メズ千八百七十九年第一月一日以後明言若クハ黙認シタル一切ノ契約ハ其契約ヲ明言若シクハ黙認シタル時ノ合衆國ノ律法ニ由リ確定セル量目及ビ性合ノ合衆國本位貨幣ニテ拂ハル可シ

此紐約律法ハ千八百七十九年第一月一日金貸發行ノコトヲ制定シタル國會ノ條例ノ議定以後二箇月ニシテ議定セラレタリ故ニ紐約律法ノ草案者ノ意見ハ飽クマテ國會ノ政畧ヲ認可且ツ賛成スルコトニ傾向シタルヤ明カナリ  
紐約州ガ其租税ノ拂方ニ於テ要求レ得ル所ノ通債ニ就テハ該州ノ施ス所ノ裁量権カハ自主ニシテ毫モ制限ナシ而シテ此律法ノ出税者ニ要求スルニ金貸合衆國金貸証券或ハ要求ニ應ジ直チニ金貸ト交換ス可キ國立銀行紙幣ヲ以テスルニ至テハ實ニ嚴密ニシテ細微遺ス所ナク闊大及バザル所ナシト謂フ可キナリ  
然リト雖モ其第二節ニ於テ明言若クハ黙認シタル私債ヲ論スルニ至テハ金貸ナル語ハ去ツテ貨幣ナル語之レニ代リ又タ其條例ノ名称ニ於テ金貸ナル語ハ通債ナル語 更ニ輕易ニシモ

ノニ替へラル第一節 於テ顯ハ、ガ如キ此律法ノ草擬者ノ  
定見ヲ見レバ金貨ナル語ノ其第二節及び其名称中ヨリ去テ跡  
ナキハ必ズ或ル抑制ノ抵抗ス可カラザルモノアルモ曰テ起リ  
シヤ疑ヒナシ此抑制トハ何ゾヤ蓋シ何レノ州モ金及び銀ヲ除  
クノ外何物ヲモ負債拂方ニ於テノ法貨ト為ス可ラズト合衆國  
憲法ノ命令スル所タルヤ明白ナリ  
是ヲ以テ此紐約律法ハ國會ノ命令ニ拠テ鑄造セル金銀ノ両貨  
ニ法貨ノ功カヲ与へザル可ラザル諸州ノ義務ヲ承認セタルナ  
リ而シテ其義務ヲ承認スルニ至テハ則テ一ニシテ反令抑制ニ  
由リ已ムヲ得ズ然ルニシテ意ノ欲スル所ニ非ザルモ為メニ更  
ニ輕減スル所ナシ此義務ハ合衆國一般ニ及ブ而シテ大抵何レ  
ノ州モ異議ナク尽ス所ナル可シ

通用廢止ノ事

法貨ノ案件ニ於テ法官クリツフォルト氏ノ曰ク

造幣局ノ適當ノ行法官吏ニ由リ合衆國ノ貨幣トシテ鑄造打  
印マノレタル金貨及び銀貨ヲ負債拂方ニ於テノ法貨ト為サ  
シガ為メニ國會ノ條例ハ果シテ欠ク可ラザルモノナルヤ否  
ヤハ諸説一定マズ論者ノ深ク疑ヒテ懷ク所ナリ蓋シ此等ノ  
貨幣ハ憲法ヲ以テ價位ノ基本ト定メラル、ヲ以テ若シ適當  
ノ量目及び性合ニ鑄造セラレタランニハ則テ特ニ國會ノ條  
例ヲ要マズレテ法貨タリト云フ説理ノ當ヲ得タルモノ、如  
クナル可シ

同上ノ案件ニ於テ法官フールド氏ノ曰ク

貨幣ハ價位ノ基本トシテ以テ從ツテ亦タ必ズ法貨ナラザル  
ヲ得、種々ノ貨幣條例中ニ鑄造セラル可キ貨幣ノ法貨タル  
可キヲ明言セル歟、アルハ其貨幣ノ拂方ニ出サル、時ノ

故カヲ單ニ告示スルニ過ギズシテ而シテ之ニ法債タルノ  
効カヲ与フル為ニ緊要ナルニ非ザルナリ

右ハ坂群ノ法学士ノ意見ナリ而シテ此論題ニ関シ何等ノ異見  
アルモ為メニ決シテ憑拠ノ能ク擧ゲ可キナシ右ノ意見ハ適當  
ノ量目及び性合ニ鑄造セラレタル法債ハ必ズ法債ナラザルヲ  
得ズシテ而シテ具然ルハ國會ノ條例ニ由ルニ非ズシテ憲法ニ  
由ルノ主意ヲ包括シテ遺ス所ナシ故ニ國會ハ憲法ヲ以テ附与  
セラレタル法債ノ功用ヲ法債ヨリ剝奪スル能ハズト論スルガ  
如キハ殆ト無用ニ屬スルニ似タリ

同上ノ法債ノ案件ニ於テ原告人ボツテル氏尚ホ他ノ元理ヲ擧  
ゲ以テ法債ノ法債タルノ効カアルヲ論定ス曰ク

法債ハ仮令律法ヲ以テ其法債タルヲ布告セラレザルモ尚  
ホ法債ニテ拂フ可キ負債ノ拂方ニ於テ法債タルハ已ムヲ得

ザルニ起ルニレテ其理ハ恰モ石炭ヲ要求スル契約ハ石炭  
ヲ出スヲ以テ律法上之レヲ履行シタリトシ又タ木綿ヲ要求  
スル契約ハ木綿ヲ出スヲ以テ律法上之レヲ履行シタリトス  
ルト一般ナリ

國會ハ果シテ若シ銀債ノ通用ヲ廢止シ得クハ則チ金債ノ通  
用ヲ廢止シ得ク亦タ一時ニ金銀兩債ノ通用ヲモ廢止シ得可  
キナリ

紙幣ヲ設ク可キ國會ノ權(默認ニ由テ起レル)ハ金債或ハ銀  
債ノ通用ヲ廢止ス可キ權ヲ含蓄スル能ハザル事

金銀兩債中ノ一ノ通用ヲ國會ニテ廢止シ得ルヤ如何ノ論題ハ  
紙幣ニ法債タルノ効カヲ与ヘ以テ金銀債ノ外ニ法債ヲ設ク可  
キ國會ノ權(他ノ明文アル權ヲ執行スルニ欠ク可ラザル方便ト  
仮定セラレタル)ニ就テ起ルカ若クハ將來起ル可キ論

大蔵省

題トハ全ク別異ニシテ此論題中ニ含蓄セラレザルナリ  
法債ノ案件(ワルレーフ卷ノ十二)ニ於テ裁廳ノ多数ノ意見ヲ以  
テ裁決セシ要旨ノ條々次ノ如シ曰ク國會ハ事ノ裁判上ノ再查  
ニ属スルニ當テハ第一ニ其認許セラレタル權ヲ執行スルニ欠  
ク可ラザル律法如何ヲ必ズ決定セザル可ラズ曰ク國會ハ紙幣  
ニ法債タルノ効カヲ与フルハ國債ヲ起シ軍旅ヲ徵募シ且ツ之  
レヲ整備シ而シテ叛亂ヲ鎮壓ス可キ其權ヲ執行スルニ欠ク可  
ラザルト決定シタリ曰ク此ノ如キ効カヲ紙幣ニ与フルハ此  
半ノ目的ヲ達スルニ適當ナル方便ノ一タルヤ疑ヒナシ曰ク裁  
廳ハ此ノ如キ効カヲ紙幣ニ与フルハ此等ノ目的ノ為メニ欠ク  
可ラザル方便ト國會ノ決定セル趣旨ヲ破毀スルヲ以テ理ノ當  
ヲ得タル所為ト思考セザルナリト

此裁決ニ附シタル律法ハ現在スル何等ノ貨幣ノ通用ヲモ廢止  
セズ又タ法債ヲ取捨ス可キ全權ヲ國會ニ於テ主張スルノ趣意  
ヲモ含蓄セザリキ獨リ其含蓄セシ所ハ紙幣ニ法債タルノ効カ  
ヲ与フルハ右ニ所説ノ場合ニ際シテ明白ニ黙認セラレタル權  
ナルヤ如何ノ論題ニ止マリキ  
他ノ論題モ亦タ既ニ米國ニ起リ然レモ高賣ヲ整理シ租稅ヲ収  
集スル等ノ方便タル紙幣ヲ設ク可キ國會ノ權ノ論題ノ如ク裁  
判ヲ要スルノ度ニ達セザルナリ此等ノ論題ヲ論スルハ固ヨリ  
本篇ノ目的ニ非ズ但單ニ其性質ヲ説カント欲ス乃テ本論ノ趣  
意ノ為メニ左ノ數條ヲ説クヲ要ス  
第一條 法債ヲ取捨ス可キ全權ハ決シテ明文ヲ以テ國會ニ許  
與セラレザル事  
第二條 此ノ如キ全權又ダ何等ノ全權モ決シテ黙認ニ由ラズ

有スルヲ得ガル事黙認セラレタル権ヲ得ルハ常ニ此ノ如ク権  
ノ由テ以テ主張且テ執行セラルルハ所ノ律法ノ本文ト特別ノ事  
情トニ基ツキ決定セラレ可キ特別ノ場合ニ在リ國會及ビ上等  
裁廳ノ裁決セシ趣意ニ於テハ紙幣ニ法貨タルノ效カラ与ヘレ  
ハ國乱ノ急ニ際シ國會ノ專權ヲ執行セシガ為メニ己ムヲ得ガ  
ルニ起リシナリ又タ國會及ビ上等裁廳ノ意見ニ批レバ非常ノ  
急ニ際會シ紙幣ヲ發行スルニ非ザルヨリハ租稅ヲ収集シ或ハ  
公債ヲ拂ヒ或ハ國會ノ其他ノ權ヲ執行スルヲ得ザルノ場合ニ  
於テモ亦タ此事ヲ行フテ可ナリ然レモ此等ノ場合ニ於テ従前  
黙認セラレシモノハ法貨ヲ取捨ス可キ全權ニ非ズレテ當ニ當  
時ノ確實ナル事情ニ由テ紙幣ヲ法貨ト為スノ權ニ止マリキ又  
タ將來如何ナル場合ニ於テモ紙幣ヲ法貨ト為ス可キ黙認セラ  
レタル權ハ決シテ此ノ如キ特別緊急ノ場合ヲ踰越スルヲ得

ズレテ而シテ法貨ヲ取捨ス可キ全權ト同一ノ比例ニ擴張セラ  
ルハ下ヲ得ガルナリ

第三條 前ノ五十年間ノ法議改論ノ中ニ於テ「マツクロツク」ニ  
對スル「バンク」ノ案件（ホウキートン卷ノ四ノ三百十六葉）ノ如ク  
世人ニ熟知セラレタルモノハ之レアラザルナリ此案件ニ於テ  
合衆國ノ上等裁廳ノ意見ハ大判事マルシヤル氏ノ筆ニ成レリ  
此案件ハマリーランド州ガ合衆國ノ第二銀行ノ其州中ニ於テ  
行フ所ノ業務ニ課稅センコトヲ討求セシヨリ起レリ法官マルシ  
ヤル氏ハ此ノ如キ銀行ニ免狀ヲ授与ス可キ黙認セラレタル權  
ハ國會ニ備ハルコトヲ主張シ而シテ右課稅ノ討求ヲ准許セザリ  
キ其主意タルヤ若シマリーランド州ガ輕クモ課稅スルコトヲ得  
可クハ亦タ重ク課稅シ銀行ヲシテ實際營業スルコトヲ得ザルニ  
至ラシメ以テ裁廳ニ在リ明白ナル黙認ニ由テ存スルト決定シ

裁  
廳  
明  
白  
ナ  
ル  
黙  
認  
ニ  
由  
テ  
存  
ス  
ル  
ト  
決  
定  
シ

タル國會ノ權ヲ無ミハルヲ得可ケレバナリ法官マルシャル氏  
ハ中央政府ト州政府トノ權カノ關係ニ論及シテ曰ク  
一ノ政府ノ憲法ニ基ツケル處置ヲ扞格ス可キ權カヲ他ノ政  
府ニ授与スルノ事理ニ戾ルヤ固ヨリ明白ナリト  
此論旨ハ一刀ニシテ兩及ヲ備フルモノト謂フ可シ而シテ法官  
マルシャル氏ハ兩及ヲ用ヰシナリ乃チ同氏ハ一方ニ於テハ其  
裁決シタルガ如ク國會ノ默認セラレタル權ニ由テ准許セシ所  
ノ銀行ノ業務ヲ課税ニ由テ破却ス可キ權利ヲマリランド州  
ニ許与セザル可ク而シテ他ノ一方ニ於テハ單ニ默認セラレタ  
ル權ニ由テ設置セラレタル會計委員ノ簿書中ニ登錄セラレテ  
從前課税セラル、所ノ財産ニマリランド州ノ依然課税スル  
トテ拒止ス可キ權利ヲ國會ニ許与セザル可シ同氏ノ結案ノ言  
ハ左ノ如シ

右ノ論旨ハ諸州ノ元來占有セシ所ノ何等ノ財源ヲモ諸州ヨ  
リ剝奪セズ乃チ其論旨ハ銀行ノ実産ノ為メニ拂ハル、租税  
ニ及バズ又マリランド州ノ人民ガ此銀行ニ於テ享有シ得  
ル所ノ利益ニ課セラル、租税ニ及バザルナリト  
「マックロツク」ニ對スル「バンク」ノ案件ニ於テ説出サレタル主義  
ハ現今ノ國立銀行ノ課税ヲ管制スル立法官ニ於テ承認スル所  
ナリ此ノ如キ銀行ヲ設ク可キ權ハ當ニ默認セラレシノミニシ  
テ而シテ租税ヲ課ス可キ諸州ノ權利ヲ損害セザラントテ旨ト  
シ執行セラル、モノナリ明文ヲ以テ与ヘラレシ國會ノ權ハ此  
ノ如キ制限ヲ被ラザル可シ  
第四條 國會ノ權ノ一源タル默認ノ區域ノ廣大ナルヤ疑ヒナ  
シ其制限ヲ解説スル裁廳ノ語ハ大抵常ニ「レ及的レ精確ナリト虽  
モ然レモ其語ニ下ガ」得可キ見解ノ一ナラズシテ稍々疑ハ



レキト往々之レアリ然リト虽氏爰ニ此黙認ヲ制限スル一ノ明  
白ニシテ動カス可エザル規則ノ凡テノ案件凡テノ官廳ニ於テ  
說出サル、モノアリ其規則ニ曰凡ソ國憲ノ明文ノ趣意ニ抵觸  
スル所ノ權ハ決シテ黙認ニ由テ得ラ~~ル~~ル可ラズト此規則アリ  
テ若シ金銀ノ兩債ヲ除クノ外何物ヲモ法債ト為ス~~ト~~ヲ諸州ニ  
禁止シタル憲法ヲシテ國會ニ及ボサシメバ國會ハ則チ紙幣ヲ  
法債ト為ス~~ト~~ヲ得ザル可ク而シテ明文ヲ以テ与ヘラレタル其  
權ヲ執行スルノ方便ヲ他ニ求メザル~~ト~~ヲ得ザル可シ且ツ此規  
則ニ拠レバ金銀ノ兩債ヲ法債ト為ス可キ權ト抵觸スル權ハ其  
何物タルヲ問ハズ決シテ國會ニ存スルモノト黙認セラ~~ル~~ト  
ヲ得ズ蓋シ金銀ノ兩債ヲ法債ト為ス可キ權ハ憲法ノ明言ヲ以  
テ諸州ニ屬スルモノト承認スル所ニシテ而シテ恰モ憲法ノ明  
言ヲ以テ該權ヲ諸州ニ許与セシト同一ノモノナレバナリ

國會ガ明文ヲ以テ与ヘラレタル權ヲ執行スルニ緊要且ツ適當  
ナルノ主意ヲ以テ採用シ得ル所ノ方便ハケント氏之レヲ解説  
スル~~ト~~左ノ如シ(律法註釈千二百五十葉)  
其權ノ執行ニ顯然適用ス可クシテ而シテ特ニ除却シテ例外  
ト為サレザル一切ノ方便  
ストリ~~ト~~氏之レヲ解説スル~~ト~~左ノ如シ(憲法註釋千二百四十五  
葉)  
其權ノ目的ヲ達スルニ必要且ツ顯然適用ス可クシテ而シテ  
憲法ニ於テ除却セラレザル一切ノ方便  
マルシヤル氏之レヲ解説スル~~ト~~左ノ如シ(ホウキートン卷ノ四  
ノ三百十六葉「マックロウクニ對スルバンクノ案件」)  
其權ノ目的ニ適當且ツ顯然適用ス可クシテ而シテ禁止セラ  
レズ憲法ノ文字及ビ精義ト併立スル一切ノ方便

大義

國會ノ企圖スル所ノ行為ガ國會ニ禁止ヲ為ス明文ノ趣旨ニ抵觸スルト其行為ノ成果ガ明文ヲ以テ諸州ニ許与セラレタル權利ヲ破却スルニ在ルトハ到底一理ニシテ毫モ差異アルコトナシ何レノ場合ニ於テモ憲法ノ明文ノ趣旨ト兩立ス可ラザル權ハ決シテ默認ニ由リ國會ニ占有セラル、コトヲ得ズト云ヘル規則均シク適用セラル可キナリ是レ即チ或ル場合ニ際シ紙幣ニ法債ノ効カラ与フ可キ國會ノ默認セラレタル權ハ金銀ノ兩債ヲ負債拂方ニ於テノ法債ト為ス可キ諸州ノ明言ヲ以テ承認セラレタル權利ヲ諸州ヨリ剝奪スルガ如キ度ニ至ル迄決シテ擴張セラル、コトヲ得ザル所以ナリ但シ明文ヲ以テ与ヘラレタル國會ノ權ヲ執行スルノ方便ヲ撰擇ス可キ區域ハ明文ヲ以テ定メラレタル制限ヲ踰越セズンハ其方便ヲ求ムルコトヲ得ザルガ如キ狭小ノモノニ未ダ曾テ至ラザルナリ

第五條 金銀ノ兩債ヲ法債ト為ス可キ諸州ノ明文ヲ以テ与ヘラレタル權ト抵觸スル所ノ權(金債或ハ銀債ノ通用ヲ廢止ス可キ)ノ常ニ默認ニ由テ占有セラレ得ルト云フ事ハ固ヨリ之レヲ主張スルヲ得ズト虽モ若シ姑ク此事ヲ以テ主張スルヲ得タルコトト仮定スルモ尚ホ如何ナル趣意ノ默認ニ由テ「金債或ハ銀債ハ法債タル可ラズト云フガ如キ全ク金債或ハ銀債ヲ廢止スル條例ハ國會ヲシテ憲法ヲ以テ委任セラレタル其職務ヲ執行スルコトヲ得セシメンカ為メニ必要ナル可キヤ容易ニ了解シ得可ラザルナリ公債ヲ起シ高賣ヲ整理シ開戦ヲ公告シ兵隊ヲ扶持シ或ハ租稅ヲ收集ス可キ明文アル諸權ヲ執行セシメガ為メニ紙幣ヲ發行スルノ權ハ默認セラレ得ルヤ疑コトナシ然リト雖モ未ダ曾テアラザル一種ノ紙幣ノ市價ニ於テ金屬貨幣ニ超過セルモノノ創製セラル、ニ至ル迄ハ金屬貨幣ノ通用ヲ廢止スルハ

紙幣ノ通用ノ為メニ決シテ必要ナラザルナリ千八百六十二年  
第二月二十五日紙幣ヲ法貨ト為ス條例ノ議定セラレシ時ニ当  
テヤ金屬貨幣ノ通用ヲ廢止スルノ如キハ決シテ思考ノ及バ  
ザリシ所ナリ通貨ヲ制定シ且ツ貨幣ニ關係スル一切ノ議論ヲ  
統轄ス可キ全權ノ默認ニ至ラザルヨリハ如何ナル默認モ決シ  
テ金貨或ハ銀貨ノ通用ヲ廢止シテ可ナルノ主意ヲ含蓄セザル  
可シ而シテ右ノ如キ全權ハ即チ金銀兩貨ノ通用ヲ廢止シ之レ  
ニ代フルニ何物ヲ以テ通貨ト定ムルモ可ナルノ主意ヲ含蓄ス  
可シ

貨幣ニ關係スル國會ノ權ハ法貨ノ案件ノ裁決ニ由リ輕重  
セラル、事

國會ニ於テ明文アル其權ヲ執行センガ為メニ律法ニ依リ紙幣  
ヲ通用セシムルノ必要且ツ適當ナル可キ時ハ則チ紙幣ヲ發

行シテ可ナルノ時ナルトテ許諾スルハ國亂ノ際紙幣ヲ法貨ト  
為シタルノ先例ト此舉ニ就キ上等裁廳ノ裁決シタル趣旨トニ  
由リ已ムヲ得ザルニ起ル所ナリト虽モ此許諾ヲ為ス以上ハ多  
少ノ危険アルヲ思ハザル可ラズ其危険ハ何事タルニ拘ラス決  
シテ之レヲ適ル可キノ道アラザルナリ然リト虽モ既ニ一ト度  
紙幣發行ノ權ヲ執行シタル場合ニ於テ存セシ已ムヲ得ザルノ  
事情ノ確實ナリシト當時此已ムヲ得ザルノ事情ノ存スルト  
ヲ決定セシ人々ノ愛國心及ビ其卓見ノ疑フ可ラザルトトハ固  
ヨリ明クナリ將來ノ事ニ至テハ公義ヲ尊ミ私權ヲ重ンスル志  
氣ノ強盛ナル米國人民ノ如キハ何レノ國ニモ決シテナキ所ニ  
シテ且ツ其人民ハ屢々艱難ニ遭遇シタリト虽モ貨幣ニ關スル  
立法ヲ奇貨トシ之レニ依テ欺騙ヲ行フガ如キハ其未タ曾テ為  
サレタルトテ省思スレバ假令危険ノ恐レ全ク消散セザルモ

尚ホ頗ル浅小ニ至ル可シ  
明文アル國會ノ權ヲ執行スルニ必要ナルノ主意ヲ以テ發行セ  
ラレタル紙幣ハ或ル制限ヲ全ク免ルハ能ハズ之レニ反シテ國  
會ニ於テ金貸或ハ銀貸ヲ廢止スルトハ法債ヲ取捨ス可キ全權  
ヲ國會ニ掌握スルニ非ザルヨリハ能ク行ハル可ラズ而シテ此  
ノ如キ權ハ若シ其實ニ存スルニ於テハ金貸及ビ銀貸ヲ除クノ  
外何物モ法債タル可ラズト云ヘル禁止ヲ以テ諸州ノ如ク制限  
セラレザルナリ國會ハ若シ銀貸ヲ廢止シ得可クハ亦ク金貸ヲ  
廢止シ或ハ金銀ノ兩貸ヲ廢止シ而シテ之レニ代フルニ如何ナ  
ル物質如何ナル紙類ヲ以テ貨幣ト定ムルトモ得可キナリ債  
幣ヲ金ニ制限スルハ果シテ債主ノ利益タル可キヤ實ニ疑フ可  
シト雖モ固ヨリ其利益ノ為メニスルニ外ナラズ然ルトモ右  
ノ如ク種々ニ轉用セラレ易クシテ終ニ債主ノ失敗ヲモ醸シ得

可キ權ヲ確認セバ債主ハ之レニ由テ利益ヲ得ンヨリ寧ロ損失  
ヲ被ルニ至ル可キナリ

國會ニ於テ現ニ執行セラル、其權ノ憲法ニ由テ存スルトテ肯  
ンザザル人々ノ自クテ其權ヲ執行シ能フ時其之レヲ執行スル  
ヲ禁制ス可キ法則ハ政理上決シテアラザル所ナリ此ノ如キ法  
則ハ即チ其權ノ僭奪ヲ煽動スル人々ヲシテ特リ其權ヲ施用享  
有セシム可キ殊典ヲ其權ノ僭奪ニ加賜スルモノト謂フ可キナ  
リ然ルテ況ンヤ當時其權ノ現ニ執行セラル、以上其權ノ憲法  
ニ由テ存スルヤ如何ノ論題ハ全ク結了セルモノナルニ於テオ  
ヤ何等ノ權モ畢竟國ノ偏重ナル政柄ノ為メニ施用マラル可キ  
モノタルヤ必セリト謂フハ猶ホ人民ハ唯政府ノ私ニ依ラ以テ  
制御ス可クシテ而シテ公義及ビ愛國ノ志氣ナキモノト謂フガ  
如クナル可シ其言ノ誤レルヤ固ヨリ明クナリ然レモ人ハ其攻

撃ヲ受ルニ當リ攻撃者ノ権理ヨリモ自家ノ権理ヲ顧慮スルノ  
特ニ深カラザル可キヲ期望スルガ如キハ徒為ニ属ス而シテ  
守戦ハ攻戦ノ時ヨリモ更ニ奏功ノ大ナルヲ決シテ之レヲキ  
理ハ決シテ世人ノ始メテ知ル所ニ非ザルナリ

外國貨幣ノ事若シ國會ニ於テ其價位ヲ制定セザル時ハ諸  
州ハ其價位ヲ制定シ而シテ之レヲ法債ト為スヲ得ルナ  
リ

合衆國改正律例ノ第三千五百八十二節ハ即チ左ノ如シ

凡ソ外國ノ金貨或ハ銀貨ハ負債拂方ニ於テ法債タル可カラ  
ズ

右ノ律文ニ引用スルニ外國貨幣ニ関スル條例ト称名セル一千  
八百五十七年第二月二十一日ノ條例ノ第三節ヲ以テセリ其第  
三節ハ即チ左ノ如シ

外國ノ金銀兩貨ノ通用ヲ確定シ而シテ之レヲ負債拂方ニ於  
テノ法債ト為シタル従前ノ條例ハ總テ此節ヲ以テ廢止セラ  
ル然レモ我國ノ高賣上ニ関係アル外國貨幣ノ平均マール量目  
性合及ニ價位ヲ決定セシガ為メニ時々其貨幣ヲ試験セシメ  
而シテ其試験表ヲ年報中ニ掲載スルハ即チ造幣局長ノ職掌  
タル可シ

其後一千八百七十三年第三月三日ヲ以テソダエリシ  
ノ税関ノ價位ヲ確定スル條例ノ第一節ニ於テ左ノ如ク議定セ  
ラレタリ

合衆國ノ貨幣ノ額ヲ以テ計算スル所ノ外國貨幣ノ價位ハ即  
チ此ノ如キ貨幣ノ純粹ナル地金ノ價位タル可シ而レテ世界  
ノ諸國ニ流通スル本位貨幣ノ價位ハ造幣局長毎歳之レヲ確  
定シ而シテ大蔵卿第一月一日ヲ以テ之レヲ公告ス可シ

右ニ掲載スル一千八百七十三年第三月三日ノ條例ノ第一節ハ  
毫モ変更ナク改正律例ノ中ニ加ヘラレ其律例中ノ第三十五百  
六十四節ヲ成ス

一千八百五十七年第二月二十一日ノ條例ハ二様ノ見解ヲ下シ  
得可キナリ一ハ即チ其條例ハ明文ヲ以テ外國貨幣ノ通用ヲ禁  
止セザルモ其目的ト成跡トハ外國貨幣ノ價位ヲ制定セル一切  
ノ律法ヲ廢止シ以テ實際上其通用ヲ防止スルニ在ルト是レナ  
リ他ノ一ハ即チ其條例ハ外國貨幣ノ價位ヲ制定セル一切ノ旧  
法ヲ廢止シ之レニ代フルニ其價位ヲ制定スルノ新法ヲ以テス  
ルト是レナリ極メテ夥多ニシテ且ツ屢ニ変更セラレタル従前  
ノ一切ノ律法ハ其律法中ニ名指シタル各種貨幣ノ法債タルノ  
價位ヲドルラル及ビセントニテ逐一明示シタリ若レ一千八百  
五十七年第二月二十一日ノ條例ガ此等ノ従前ノ律法ヲ廢止ス

止マツシ時ハ外國貨幣ノ通用ス可キ價位ノ規則ハ一モ存  
セザル可シ然レモ一千八百五十七年第二月二十一日ノ條例ハ  
従前ノ律法ヲ廢止スルニ止マラズシテ外國貨幣ノ價位ヲ確定  
且ツ公告スルノ新法ヲ制定スルニ至レリ

若レ一ノ律法ニ瞭然ニ様ノ見解ヲ下タレ得可キ時ハ此律法ヲ  
シテ立法官ノ本務ニ適合スルモノヲラシメ且ツ之レヲシテ憲  
法ヲ以テ定メラレタル立法官ノ権限内ニ在ラシム可キ所ノ見  
解ハ取ル可クシテ而シテ此律法ヲシテ立法官ノ本務ヲ損傷ス  
ルモノヲラシメ且ツ之レヲシテ判然立法官ノ権限ヲ踰越セシ  
ム可キ所ノ見解ハ捨ツ可キナリ外國貨幣ノ事ニ関シ國會ノ占  
有スル所ノ権ハ憲法中ニ極メテ精確ニ記載セラル其権タルヤ  
外國貨幣ノ通用ヲ確定シ若シクハ之レヲ禁止スルニ在ラズシ  
テ單ニ其價位ヲ制定スルニ在リ而シテ制定スルトハ其價位ノ

幾何タルヲ確定公告スルヨリ他ノ義決シテアル可ラズゴロ子  
ル、ベントン氏曰クサルテホー、イトヤルス、インゼ、セ子ト卷ノ  
一第四百四十四葉ヨリ五葉ニ至ル

外國貨幣ノ貨幣ニシテ流通ス可キハ固ヨリ憲法ノ本旨ニシ  
テ諸州ノ企圖セシ所ナリ故ニ憲法ハ國會ニ授与スルニ此等  
ノ貨幣ノ價位ヲ制定スルノ權ヲ以テセリ而シテ外國貨幣ノ  
通用ヲ妨害ス可キ國會ノ律法ハ悉ク憲法ヲ犯スモノト謂フ  
可キナリ外國貨幣ノ事ニ関シ憲法ノ國會ニ授与シタル權ハ  
當ニ其價位ヲ制定シ且ツ其質造ヲ防クノ權ニ止マル其通用  
ヲ禁止スルガ如キハ此權ニ下ダス見解ノ極メテ奇異ナルニ  
出ルヤ必然ナリ

外國貨幣ノ法債タル可ラザルトテ確定シタル改正律例ノ第三  
千五百八十二節ハ憲法ヲ以テ與ヘラレタル國會ノ權ニ由テ主

張シ得可ラザルモノタルヤ明カナリ是ヲ以テ効カナキモノト  
ス加之ナラス其節ハ其紙邊ニ引用セラレタル一千八百五十七  
年第二月二十一日ノ條例ヲ真ニ改正セルモノニ非ス何トナレ  
ハ其條例中ニハ外國貨幣ノ法債タルトテ禁止スルノ趣旨決シ  
テアラザレハナリ

國會ハ外國貨幣ノ價位ヲ制定スルノ其權ヲ造幣局ノ行法官吏  
ニ讓与シ之レヲシテ其權ヲ執行セシムルトテ得ズ然レバ之レ  
反シテ國會ハ一千八百七十三年第三月三日ノ條例ノ第一節ノ  
改正律例中ニ合併セラレタル以來外國貨幣ノ價位ヲ制定スルノ  
規則即チ外國貨幣ノ價位ハ此ノ如キ貨幣ノ純粹ナル地金ノ價  
位タル可シト云ヘル規則ヲ精確ニ解説シ以テ外國貨幣ノ價位  
ヲ自カラ制定スルトテ得ルナリ外國貨幣ノ事ニ関シ此事務ヲ  
除キ殘ル所ノモノ即チ其貨幣ヲ試驗シ且ツ其重量ヲ定ムルト

ハ其性質ニ於テ全ク行法上ノ事務ナリ  
概スルニ金銀兩便ノ價位ハ憲法ニ拠テ之レヲ制定スルノ權アル國會ノ制定スルナリトノ意見ハ改正律例ノ第三千五百六十四節ニ拠テ每歲其兩便ノ價位ノ公告セラル、ヲ以テ更ニ確實ナルモノ、如シ

此ノ意見ニ拠レバ此等ノ貨幣ハ諸州ニ於テ特ニ條例等ノ設ケナクシテ既ニ法債ナリ而シテ諸州ハ實ニ此等ノ貨幣ヨリ其法定セラル、所ノ外國貨幣ハ國會ノ權ニ拠テ鑄造セラル、内國貨幣ト均シク憲法ニ基キ法債タルモノナリ

然リトモ、若シ改正律例ノ第三千五百六十四節ニ拠テ外國貨幣ノ價位ノ每歲ノ公告ガ外國貨幣ノ價位ヲ制定ス可キ國會ノ權ヲ執行スルノ適當且ツ有効ナルモノニ非ザル、ノ決定セラ

ル、ニ當リ諸州自カラ此ノ如キ貨幣ノ價位ヲ制定スルヲ適當ト思考スル時ハ國會ノ此權ヲ執行シテ其實効アルニ至ル迄ハ諸州自カラ然スルヲ得ルナリ外國貨幣ノ價位ヲ制定スルノ國會ノ權ハ之ヲ許スルノ明文ニ由ルモ亦タ其眞實ニ由ルモ特有ノ權ニ非ズ是ヲ以テ若シ國會ノ之レヲ執行セザル時ハ諸州自カラ之レヲ執行スルヲ得ルナリ

此論題ニ関シ識者ノ所説ハ皆相符合ス其諸説ハ司法卿ケント氏ノ律法註釋卷ノ一第三百八十七葉ヨリ八葉ニ於テ引用對照セラル同氏ハ其結局ニ至テ眞正ノ規則ヲ説出セリ曰ク

國會ニ一ノ權ヲ單ニ許典スルハ此權ノ執行ヲ諸州ニ禁止スルノ趣旨ヲ含蓄セザルナリ故ニ國會ハ身代限リノ事ニ関シ一齊一ノ律法ヲ設立スルノ權アリトモ、若シ此事ニ関シ一齊一ノ律法ヲ設立セル國會ノ條例ノ實行セラル、モノナクハ諸



州ハ則チ身代限リテ律法ヲ設立スルヲ得ルナリ國會ニ於  
テ議定セル律法ノナキニ當テハ諸州之レヲ議定スルヲ得  
ルナリ蓋シ諸州ニ於テ一ノ權ヲ執行スルヲト兩立ス可ラザ  
ルモノハ國會ニ其同權ノ單ニ存スルニ在ラズシテ而シテ國  
會ニ於テ之レヲ執行スルニ在レバナリ  
此規則ハ「ムール」ニ對スル「ハウストン」ノ案件(ホウヨートン卷ノ  
四第一葉)ニ於テ合衆國ノ上等裁廳ノ斯ク裁決シタル所ナリ此  
案件ニ於テ司法卿ケント氏ノ曰ク  
裁廳ノ裁決セル要旨ハ他ナシ國會ノ一事ニ関シ其權ヲ執行  
スル時ハ諸州ハ此事ニ立入り之レガ為メニ律法ヲ設立スル  
ヲ得ザルヲナリ  
合衆盟約ノ款條ニ拠レバ國會ハ造幣ノ權ヲ特有セズシテ諸州  
之レヲ共有シ而シテ外國貨幣ノ價位ヲ制定スルノ權ヲ全ク

有セザリシテハ憲法ノ此部ノ沿革ヲ示サシメガ為メニ茲ニ説  
クヲ以テ適當トス憲法ハ此款條ヲ改正シテ諸州ノ造幣スレ  
ヲ禁止シ以テ國會ヲシテ此權ヲ特有セシメ且ツ新タニ國會ニ  
與フルニ外國貨幣ノ價位ヲ制定スルノ權ヲ以テセリ合衆盟約  
ノ款條ニ於テ此權ヲ國會ニ許與スルノ語ハ即チ左ノ如シ  
國會自己ノ權ニ依リ若クハ諸州ノ權ニ依リ鑄造セラル、貨  
幣ノ雜金及其價位ヲ制定スルノ特權  
ストリー氏曰ク(憲法註釋千百十七葉)  
合衆盟約ノ款條ニ拠レバ外國貨幣ノ價位ヲ制定ス可キ權ヲ  
國會ニ與フルノ旨更ニナシ故ニ各州自カラ其律法ヲ設ケテ  
外國貨幣ノ價位ヲ定ムルヲ得シテ以テ為メニ其價位ノ不  
同ヲ致セシテ頗ル大ナル可シ乃チ憲法ノ此欠典ヲ補ヒタル  
ハ處置ノ最モ宜シク得タルモノト謂フ可キナリ

此主意ニ就テハゼフコトヲリスト第四十二号ヲ見ル可シ其書  
中ニ所説ノ如ク法官ストリ一氏ハ外國貨幣ヲ法債ト為ス可キ  
権理ハ此ノ如キ貨幣ノ價位ヲ制定ス可キ國會ノ権ニ附属スル  
モノトシテ無論諸州ノ占有スル所ナリト論ス此國會ノ権ニ附  
属スルノ一事ヲ除キ他ニ此権理ニ毫モ制限ナシ而シテ若シ國  
會此制定ノ権ヲ執行スルヲ適當ト思考セザル時ハ諸州ハ隨意  
自由ニ其権理ヲ執行スルヲ得ルナリ  
外國貨幣ノ自由流通ヲ要スル所ノ理由ハ一ニシテ足ラズ或ハ  
便宜ニ出ルモノアリ或ハ緊要ニ起ルモノアリ貨幣ノ鑄造ハ多  
クノ費用ヲ要スルモノニシテ就中銀債ノ如キハ殊ニ然リトス  
而シテ我米國ノ造幣局ノ如ク尊重信依ス可キ造幣局ヨリ發行  
セラレタル貨幣ヲ改造スルヲ要スルガ如キハ政府ノ為メモ  
亦々個々人々ノ為メニモ徒ニ無用ノ費用ヲ醸生スルニ過ギザ

ナリ我米國造幣局ノ管事者ハ銀債鑄造ノ現費ヲ價位ノ百ニ  
付キ一半ト算定ス其貿易銀改造ノ依頼ニ應スルニハ則チ此割  
合ニ基ツク我米國ノ貿易ニ由テ内國ニ入ル外國貨幣ノ常ニ極  
メテ夥多ナルモノハメキシコノドルヲナリ信用ヲ置クニ足  
ル此ドルヲルノ如キハ未タ曾テ他ニ見ザル所ニシテ實ニ其方  
國ニ於テ信用ヲ受ルモ亦タ宜ナリト謂フ可シメキシコ共和國  
ノ造幣局ハ其政府ノ他ノ部門ニ於テ如何ナル混乱ノ起ラタル  
時ト雖モ常ニ其處置最モ宜シキヲ得タリ而シテ今尚ホ然リ合  
法ノ貿易ニ於テメキシコノドルヲ收領スル所ノ我國人ヲ  
シテ此ドルヲルノ無益ナル改造ノ為メニ百ニ付キ一半ノ損失  
及ビ之レニ加フルニ此改造ノ為メニ費ヤサル、時間ノ損失ヲ  
被ラレムルハ惡弊ノ最モ甚タレキモノナリメキシコノドルヲ  
ルハ我國ニ流通スル是班牙ノ古ドルヲルノ後嗣ヲ為シタリ而

レテ我國ニ於テ銀貨ノ通用金ノ一部タリシニ當リ質位ノ其右  
ニ出タル貨幣ハ決レテナカリキ  
我造幣局ノ管事者ガ其事務ヲ盛大ニセン<sub>ト</sub>ヲ欲望スルハ自然  
ノ情勢ナリ其事務盛大ニ至レバ則チ其自家ノ關係重大ニ至リ  
随<sub>ツ</sub>テ其保護ヲ受ル<sub>ト</sub>モ亦<sub>ツ</sub>厚キニ至ル此利益ハ各省各署皆  
均シク之レヲ享有ス裁廳尚ホ且<sub>ツ</sub>此通患ヲ免レズ蓋シ裁判ノ  
権限ヲ擴グルヲ以テ良法官ノ所為トスルハ裁廳ノ認可レタル  
通詔中ノ一ニ居レバナリ我政府ノ史中ニ於テ造幣局ノ官吏ガ  
諸種ノ外國貨幣ノ無用ニシテ徒費ヲ醸生スルニ止<sub>リ</sub>テ毫モ  
改良ヲ致サバ<sub>ル</sub>改造ヲ強<sub>ヒ</sub>テ行ハレメンガ為メニ及ボシタル  
影響ノ常ニ多少存シタルハ更ニ疑ヒラ容ル可ラザル所ナリ  
若シ諸州ニ於<sub>テ</sub>メキシコノ銀貨或ハ其他ノ外國ノ金貨或ハ銀  
貨ハ大藏卿ノ毎歲ノ布告ヲ以テ定メラレタル價位ニ從テ法貨

タル可ラズト議定スル時ハ此ノ如キ議定ハ其事情ノ如何ニ拘  
ハラズ必ズ有効ナラザル可ラズ即チ若シ大藏卿ノ布告<sub>ハ</sub>外國  
貨幣ノ價位ヲ制定ス可キ國會ノ權ヲ執行スルノ有効ナルモノ  
ナル時ハ當ニ重複無用ノ所為ナリト雖<sub>モ</sub>尚<sub>モ</sub>有効ナル可ク高シ  
テ若シ此ノ如キ布告ガ國會ノ此權ヲ執行スルノ有効ナルモノ  
ナラザル時モ亦<sub>ツ</sub>有効ナル可シ何トナレハ若シ國會ニ於テ外  
國貨幣ノ價位ヲ制定スルノ權ヲ執行セザル時ハ諸州其價位ヲ  
制定スル<sub>ト</sub>テ得レバナリ

千八百七十四年合衆國律法ノ改正  
合衆國ノ改正律例<sub>ハ</sub>稱スル所ノ律法ハ何等ノ改正モナク亦<sub>ツ</sub>  
何事ノ増補モナク徒前存在スル律法ヲ合併シタルニ止マリシ  
旨ノ改正委員ノ保證ニ拠リ國會ニ於テ一千八百七十四年第六  
月全部議定セラレタリ

グエルモント州ノ法官ポランド氏ハ改正委員ノ一人ナリキ  
一千八百七十六年第一月四日ヲ以テ同氏ハ大蔵卿ニ一書ヲ寄  
送シ以テ改正律例中ニ歿ル改正アリテ一種ノ羊毛ニ課スル海  
関稅ノ改正ニシテ如何ノ論題ヲ辯論シタリ同氏ノ主張セシ所  
ハ即チ何等ノ改正モ國會ノ企圖スル所ナラザリシヲ以テ改正  
律例ノ名ハ若シ之レヲ解スルニ改正ヲ為スノ義ヲ以テスルヲ  
避ルルヲ得可クハ改正ヲ為スノ義ヲ以テ之レヲ解ス可ラズト  
ノヲナリキ其書簡中ニ曰ク

委員ハ此改正ノ事務ニ於テ毫モ律法ノ改正ヲ為スル旨ヲ  
國會ニ於テ反復公言シ而レテ其事務ヲ行フニ當テハ國會ニ  
公言シタル右ノ旨ニ深ク注意シテ所置ス可キヲ慮レリ器  
一ノ律例ヲ解スルニ當テ其律例ノ主意ハ專ラ其名ニ曰ク之  
レヲ求メザレ可ラザルハ余ノ善ク了知スル所ナリ然リト

虽此一ノ律例ノ名ニ由テ其主意ヲ明解シ得可ラザルニ當リ  
立法ノ沿革ト之レニ從フ所ノ種々ノ事情トヲ熟慮シテ其主  
意ヲ決定シタルト往々之レアリ今ヤ律法ヲ改正スル主意ノ  
有無如何ノ判然タラザルヨリ一ノ論題ト為リタル此改正律  
例ノ何節ヲ解スルニモ亦タ當ニ右ノ如クナル可クシテ其事  
實ハ余既ニ上文ニ之レヲ陳述シタリ即チ委員が毫モ改正ヲ  
為サザル可キ旨ヲ屢ニ公言シ且ツ國會が此旨ノ保証ニ於テ  
決議セシトハ當ニ熟慮セラル可キヲナリ

改正委員ヨリ其事務ノ為メニ國會ニ保証セシ趣旨ニ就キ一千  
八百七十六年第一月四日ノ右ノ書簡中ニ法官ポランド氏ノ  
陳述セシ件々ノ全ク精確ナル國會ノ記録ヲ以テ之レヲ徵ス  
可シ此委員中ノ一頁タルシエ子ラルホットレル氏ハ其慣手ノ  
雄辯ヲ以テ國會ノ認可ノ為メニ差出シタル改正律例中ニハ新

事ノ一語一字モナキテ國會ニ公言シタリ

國會ノ為ラント企圖セシ事ト一千八百七十四年改正律例ヲ其採用セシ時ノ其思想トシ心ニ銘記セバ此改正律例ノ七百十二葉第一十九篇ノ誤レルヤ明カナル可シ

此改正律例ノ第三千五百八十六節ハ即チ左ノ如シ

合衆國ノ銀貨ハ總テ一度ノ拂方ニ於テ五ドルヲヨリ多カラザル金額ノ為メニハ其貨面上ノ價位ヲ以テ法貨タル可シ

此節ノ趣旨ハ其紙邊ニ引用セラレタル律法ニ非ザルヨリハ當時存在セル律法ノ決レテ正當トモザリシ所ナリ其紙邊ニ引用セラレタル律法ハ一千八百七十三年第二月十二日ノ貨幣條例ノ第五節ニテ即チ左ノ如シ

合衆國ノ銀貨ハ貿易ドルタル半ドルタル即チ五十セント、貨

四分ノ一ドルタル即チ二十五セント、貨十分ノ一ドルタル即チ十セント、貨タル可シ而シテ貿易ドルタルノ量目ハ四百二十グレエン半、ドルタルノ量目ハ十二半グラム、四分ノ一ドルタルノ量目ハ右半ドルタルノ量目ノ一半ニシテ十分ノ一ドルタルノ量目ハ右半ドルタルノ量目ノ五分一タレ可シ而シテ右ノ銀貨ハ總テ一度ノ拂方ニ於テ五ドルタルヨリ多カラザル金額ノ為メニハ其貨面上ノ價位ヲ以テ法貨タル可シ

貿易ドルタル半ドルタル、四分ノ一ドルタル及チ十分ノ一ドルタルノ鑄造ヲ確定シタル一千八百七十三年第二月十二日ノ貨幣條例ノ一切ノ款條ハ改正律例ノ中ニ加ヘラレ今其一部ヲ成スヲ以テ一千八百七十三年第一月十二日ノ條例第十五節ノ至當ナル改正ハ合衆國ノ一切ノ銀貨ニ非スシテ改正律例ヲ以テ鑄造ヲ確定セラレタル銀貨ノ五ドルタルノ金額ノ為メニ法貨

タル可クシテ之レヨリ多キ金額ノ為メニ法債タル可カラザル  
ヲラ制定スルニ在レ可シ改正ノ趣旨此ノ如クハ其節ハ則チ一  
千八百七十三年第二月十二日以前ニ確定鑄造セラレタル銀債  
ハ勿論其後國會ニ於テ確定セラル可キ一切ノ銀債ニ至ルマテ  
悉ク之レヲ廢止スルガ如キノ趣旨ヲ決シテ含蓄セザル一千八  
百七十三年第二月十二日ノ條例ニ由テ恰モ其効カラ失ハザリ  
シト同様ニ自カラ其効カラ保ツ可シ一千八百七十三年第二月  
十二日ノ條例ヲ以テ法債タルノ効カラ五ドルニ制限セラ  
レタル右ノ銀債ハ精密ニ舉示セラル即チ貿易ドルニシテ半ドル  
ヲル四分ノ一ドルヲル及ビ十分ノ一ドルヲルナリ此等ノ銀債  
ハ四百十二半グレエンノ本位古ドルヲルニ基ツカズシテ總テ  
其量目ノ異ニス其ナル貿易ドルヲルハ我國ノ立法上全ク新  
債ニシテ持リ東洋ニ輸出センガ為メニ設ケラレタリ其他ノ銀

債ハ二十年以前確定セラレ且ツ五ドルヲルヨリ多キ金額ノ為  
メニ曾テ法債タラザリシ所ノ輕量ノ銀債ト殆ント符合ス一  
千八百七十三年第二月十二日ノ條例ハ今尚ホ存在ス可キ所ノ  
本位古ドルヲルノ法債タル効カラ五ドルニ制限セズ又一  
千八百五十三年以前ニ鑄造セラレテ十分ノ量目アル一ドルヲ  
ル以下ノ小銀債ノ法債タルノ効カラ五ドルニ制限セザル  
ナリ此小銀債ハ今尚ホ存在スルモノ甚タ多クシテ既ニ客歲中  
現ニ流通シタリ  
一千八百七十三年第二月十二日ノ條例ノ第十五節中ニ舉示セ  
ラレタル銀債ヲ除クノ外如何ナル銀債ヲ鑄造スル一モ總テ其  
第十七節ヲ以テ禁止セラルヤ明カナリ其第十七節ハ即チ左  
ノ如シ  
此條例中ニ明ホセラレタル稱名本位或ハ量目ノ貨幣ヲ除ク

ノ外總テ金貨銀貨或ハ其他ノ貨幣ハ自今造幣局ヨリ發行セ  
ラル可ラズ

然レ氏一ノ國會ノ為ス所ノ事ヲ他ノ國會ハ廢止スルヲ得ル  
ナリ而シテ律法ハ之レヲ議定セシ同一ノ國會ニ由テ変更セラ  
ルハ丁往々之レアリ本位古ドルタルノ鑄造ヲ廢止センガ為メ  
ニ一千八百七十三年現ニ明示セラレタル理由ハ他ナシ貴重  
ル兩種ノ金屬ノ當時ノ市價ヲ比例スルニ本位古ドルタルノ市  
價ハ金貨ニテ一百零三セントニ當レリ是ヲ以テ此ドルタルハ  
依然之レヲ流通セシムル能ハズトノナリキ然リト雖モ金屬  
ノ市價ノ比例ハ變スルヲアル可シ而レテ實ニ變シタリ國會ニ  
行ハルノ意見モ亦タ變スルヲアル可シ蓋シ國會ニ於テ確定ス  
ル所ノ貨幣ニ関シ其意見ノ變シタルヲ往々之レアレバナリ  
若シ一千八百七十三年以後ノ國會ニ於テ本位古ドルタルノ鑄

造ヲ准許セハ則チ此ノ如キドルタルノ法貨タルノ効力ハ一千  
八百七十三年第二月二十一日ノ條例ノ第十五節ニ由テ堅重  
ラレザル可シ此節ハ其中ニ舉示セラレタル右ノ銀貨ニ適用セ  
ラルニ止マル然レ氏此ノ如キドルタルハ若シ一千八百七十  
四年第六月ノ後准許セラル、時ハ其法貨タルノ効力ヲ五ドル  
ラルニ減セラル可シ

千八百七十三年第二月二十一日ノ條例ノ第十五節ト改正律例  
ノ第三千五百八十六節トノ差違ハ極メテ重大ナリ第十五節(一)  
千八百七十三年ハ本位古ドルタル量目ヲ異ニセル四種ノ銀  
貨ノ法貨タルノ効力ヲ制限ス第三千五百八十六節(一千八百七  
十四年)ハ現在既往及ビ将来ノ銀貨一切ノ法貨タルノ効力ヲ制  
限スルモノニシテ當時確定セラレタル四種ノ銀貨ニ及ブ而已  
ナラズ又タ一千八百七十三年以前ニ鑄造セラレタルモノニシ

テ多クハ現ニ存在シテ一千八百七十三年二月二十一日ノ條  
例ニモ拘ハラズ制限ナキ法債タリシ所ノ一切ノ銀債ニ及ブ且  
ツ其節ハ合法ノ見解ニ依レバ此後國會ニ於テ確定セラル、銀  
債ニシテ特ニ其節ノ効カヨリ除却セラレザルモノ一切ニ及ブ  
可シ

改正律例第三十九篇ノ三千五百八十四節ハ即チ左ノ如シ  
外國ノ金債或ハ銀債ハ決シテ負債拂方ニ於テ法債タル可  
ラズ

既ニ説ケルガ如ク紙邊ノ引用ニ拠レバ此節ハ外國債幣ニ関ス  
ル一千八百五十七年二月二十一日ノ條例ノ第三節ヲ改正ス  
ルモノト看做サル、モノ、如シ而シテ既ニ証明セルガ如ク該  
條例ハ実効ノ何タルト其草案者ノ目的ノ何タルトヲ問ハカ該  
條例中ニハ「外國ノ金債或ハ銀債ハ決シテ負債拂方ニ於テ法債

タル可ラズト云フガ如キ明文モ亦タ之レト殆ント同義ノ明文  
モ決シテアラサルナリ該條例ノ議定スル所ハ「外國ノ金債或ハ  
銀債ノ通用ヲ確定シ而シテ之レヲ負債拂方ニ於テノ法債ト為  
シタル從前ノ一切ノ條例ヲ廢止スルニ在ラ而シテ該條例中ノ  
次ノ諸款ハ外國債幣ノ通用ス可キ價位ノ新法ヲ制定スルモノ  
ト解セラル、ニ非ザレバ恰モ國會ニ於テ外國債幣ノ事ニ就キ  
曾テ議定スル所ヲカリシガ如ク此事ヲ措テ問ハザリシナリ該  
條例中何レノ部ニ於テモ亦タ如何ナル見解ニ依ルモ該條例ハ  
決シテ外國債幣ノ通用ヲ禁止セズ即チ外國債幣ノ負債拂方ニ  
於テ法債タル可ラザル旨ヲ明言セザルナリ  
此ノ如キ場合ニ於テ律法ヲ改正且ツ合儀スル人々ノ職掌ハ極  
メテ明カナルモノ、如シ其職掌ハ他ナシ廢止セラル、所ノ律  
法ヲ改正律法中ニ削除スルニ在リ實ニ一事ノ改正ニ委セラ



レタルモノナシハ國ノ金貨或ハ銀貨ノ通用ヲ確定スル國會ノ  
律法ノ存在セザルハ此ノ如キ律法ノ曾テ議定セラレシナキ  
ニ由ルヤ將タ此ノ如キ律法ヲ悉ク廢止セラレタルニ由ルヤ  
問ハズ其存在セザルノ成跡如何ハ改正者ノ決シテ關係ナキ論  
題ナリ然レモ此場合ニ於テ改正者ハ外國貨幣ノ通用ス可キ時  
別ノ價位ヲ定メシ所ノ律法ヲ廢止スルハ即チ外國貨幣ノ通用  
ヲ禁止スルト同一事タルヲ假定シタリ無據且ツ極メテ奇異  
ノ假定ト謂フ可シ

一ノ目的ヲ達ス可キ一條ノ改正ノ誤レルモノハ人ヲシテ此誤  
謬ノ故意ニ出デ、而シテ不注意ヨリ起ラザリシトノ疑念ヲ起  
サシムルニ止マルヲ得可シ然レモ二件ノ改正ノ誤ツテ且ツ  
両ツ、ガ同一ノ目的ヲ達ス可キモノハ人ヲシテ此誤謬ノ故  
意ニ出デシトテ断然決定セシムルニ至ル今ヤ猥リニ改正律例

ルヤ

中ニ加フルニ合衆國ノ一切ノ銀貨ヲ廢止スルノ語ト令セテ  
外國銀貨ヲ通用ヲ禁止スルノ語ヲ以テスルニ至ラハ則チ其目  
的ハ外國ノ金銀兩貨ノ通用ヲ一般ニ禁止スル趣旨ノ虚託ニ由  
テ庇護セラル、ヲ以テ其徒ニ國法ヲ玩弄スルノ所為タルマ疑  
フ可ラザルナリ此罪惡ノ犯者ハ何人ナリシマ決シテ明知ス可  
ラザルモノ、如シ此犯罪者ノ官吏トシテ改正ノ事務ニ關與セ  
セシ人々ナリシトノハ決シテ信ス可ラザルナリ蓋シ律法ヲ  
草スル人々ヲ誘惑スル所ノ説説ハ外方ニ在テ更ニ疑ヒテ被ラ  
ザル輩ヨリ來ルテ往々之レアリ

第三十九篇ノ改正ニ關スル此等ノ批評ニ對シ或ハ論スルニ改  
正律例ハ其中ニ現在スル語ニ從ツテ解説且ツ實施セザル可ラ  
ザルモノナルヲ以テ此等ノ批評ハ縱令條理適當ノモノタルモ  
實際ノ功用ニシテ、ノ趣旨ヲ以テスルヲ得可シ然リト雖モ改

正律例中ノ何レ部分ニ拘ハラズ其國憲ニ適合スルヤ如何ノ  
論題ノ審判ニ附セラル、ニ當テハ其部分ガ國會ノ認知且ツ企  
圖シテ採用セシモノナルト書吏、委員、抄録者、改正者或ハ其他ノ  
人ノ故意或ハ失錯ニ由テ律法中ニ潛入セシモノナルトハ實際  
上極メテ大ナル差異ヲ為ス可シ律法ノ國憲ニ抵觸スルトノ證  
明セラル、ニ非ザルヨリハ其律法ヲ國憲ニ適合スルモノト看  
做スハ立法ノ權ニ正ニ服従スルニ於テ裁廳ノ必ズ為ス可キ所  
ナリトハ各裁廳ノ一樣ニ公言スル所ナリ裁廳ハ憲法ニ抵觸ス  
ルノ主意ヲ以テ律法ヲ棄却スルヲ重大ノ責任ヲ含蓄スル所ノ  
事ト考フルガ故ニ深思熟慮ノ後ニ非ザレバ敢テ此權ヲ執行セ  
ズ乃チ改正律例ノ何レノ節モ裁廳ノ深思熟慮ヲ經タルモノニ  
シテ終ニ此律例ハ律法ノ改正ニ非ズシテ却テ之ヲ不正ナラシ  
メタルモノト證明セラレタリ而シテ若シ此ノ如キ不正ノ條件

其大錯若クハ故意ニ起ルニ拘ハラズ外國貨幣ノ通用ヲ禁止  
スル節ノ如ク亦タ判然國憲ニ抵觸スルモノナルハ其然ルヲ  
確言スル所ノ裁廳ハ國會ノ裁決セル何等ノ趣旨ヲモ破毀セザ  
ル可ク而シテ實ニ國會ノ權内ニ侵入スル所ノモノヲ排撃シテ  
國會ヲ保護ス可シ

裁廳ハ其英断ヲ以テ改正律例ノ第三千五百八十六節ヲ改正律  
例ニ據リ造幣局ニ於テ鑄造シ得ル所ノ特別ノ銀貨ニ制限セラ  
ル、モノト解スルヲ得可シ此ノ如キ見解ニ據レバ此節ハ其  
紙邊ニ引用セラレタル一千八百七十三年第二月十二日ノ條例  
ト符合シテ適當ノモノト為ル可シ

諸州ハ合衆國ノ金貨或ハ銀貨ヲ金額ノ制限ナク法貨ト定  
ムルヲ得ル事  
特ニ外國貿易ノ爲ニ供ス  
貿易銀ヲ除クノ外合衆國ノ現貨ノ

律法ニ據テ鑄造ララル、  
州ハ之レニ金額ノ制限ナク法貨タルノ効カヲ附與スルヲ得  
ズト云フ説往々之レアリ此説ニ答フ可キ趣旨ニ條アリ何レモ  
此説ノ誤謬タルヲ證スルニ足ルナリ

律法ヲ以テ確定セラレタル本位銀貨若クハ其他ノ本位貨幣ニ  
シテ依テ以テ現今ノ半ドルララル、四分ノ一ドルララル、及ビ十分ノ  
一ドルララルヲ量目ノ足ラガルモノト判定ス可キモノ更ニナシ  
又如何ナル理ニ據テ考フルモ此等ノ銀貨ハ決シテ量目ノ足ラ  
ガルモノニ非ザルナリ

此等ノ銀貨ノ量目ト現今制定セララル、所ノ金貨ノ量目トニ由  
テ金銀ノ價位ノ相当スル所ヲ定ムレバ其割令金一ニシテ銀十  
四奇零九五ナリ是即チ千七百九十二年ハミルトン氏ノ定メタ  
ル一、十五トノ割令ト差フ一極メテ僅々ナリ金ト對照シタル

銀ノ現今ノ市價ノ割令ノ十四奇零九五タルハ其銀價ヲ定ムル  
ノ過當ナルヤ疑ナシ然レモ現今ノ市價ノ割令ハ法外ノモノト  
認許セラル多ノ識者ノ所見ニ據レバ銀價ノ斯ク過當ニ至ルハ  
制ス可ラガル情勢ニシテ其然ルハ掘礦ノ事實ニ基クナリ然レ  
モ其情勢ノ如何ニ至ルニ係ハラス一ト十四奇零九五ノ割令或  
ハ其他ノ割令ヲ定ム可キ國會ノ權ハ確實ニシテ議論ヲ容ル可  
ラガルモノナリ

然レモ若シ半ドルララル、四分ノ一ドルララル、及十分ノ一ドルララル  
ガ是等ト量目ノ割令ヲ異ニスル銀貨ノ鑄造ニ依テ現今其量目  
足ラガルカ若將來其量目足ラガルニ至ルトモ猶ホ是等ノ銀貨  
ヲ金額ノ制限ナク法貨ト為スヘキ諸州ノ權ハ輕重セララル、一  
ナシ是等銀貨ハ其量目ノ如何ニ待ハラス合衆國ノ銀貨タル可  
シ而シテ米國政府ハ金額ノ制限他ノ貨幣ヲ以テノ買回税金

ル可キ致カ、或ハ他ノ有致ナル方法ニ依テ他ノ一切ノ貨幣  
同等ノ市價ヲ保タザル貨幣ヲ私利ノ為メニ常ニ發行ス可シト  
想像スルガ如キハ鼻シム可クシテ且全ク容ル可ラザルミナ  
リ歐洲諸國ノ政府ハ此ノ如キ詐偽ヲ以テ貨幣ヲ發行シタル  
ナク又決シテ之ヲ發行セザル可シ、勞カノ賃銀ヲ拂フニハ銀  
貨ヲ以テス而シテ米國政府ハ此ノ如キ貨幣ノ全價ヲ維持セ  
シテ之ヲ發行スベキトハ決シテアル可キト思ハレズ若シ此  
ノ如キトアル可クシテ且現ニ行ハル、此ハ此ノ如キ貨幣ヲ金  
高ノ制限ナク法貨ト為シ以テ其價位ノ下落ヲ防グハ諸州ノ權  
利且特別ノ義務ト成ル可ラザランヤ如何ハ一ノ論題ト為ル可  
キナリ

